コニカミノルタ フォトイメージング株式会社

ホームページ

製品の互換性情報や最新版ドライバソフトウェアの提供、よくある質問(FAQ)とその回答などのサポート情報については、弊社カメラ統合ポータルサイトをご覧ください。
http://ca.konicaminolta.jp/

弊社DiMAGEシリーズデジタルカメラの商品情報については、以下のホームページをご覧ください。
http://konicaminolta.jp/dimage/

お客様フォトサポートセンター

弊社製品のデジタルカメラ、フィルムスキャナ、カメラ、交換レンズ、露出計などの機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル 0570-007111
ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL 06-6532-6205
携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX 06-6532-6252

受付時間 10:00～18:00(日・祝日定休)

0 43325 53390 7

Printed in China
9223-2736-11 IC-A406

ディマージュ G530 使用説明書

KONICA MINOLTA

ディマージュ G530

DiMAGE G530

J 使用説明書

目次

目次（続き）

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

⚠ 危険 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⚠ 警告 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発火注意）

充電式リチウムイオン電池 NP-600 について

⚠ 危険

電池は指定カメラ以外の用途に使用しないでください。また充電には専用の充電器をご使用ください。

発火、破裂、液漏れの原因となります。

電池の分解、改造、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。特に端子部分は濡らさないでください。また落としたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。

危険防止用の安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。また異常に気づいたときはすぐに使用を中止し、火気から遠ざけてください。

表面が破損した電池は使用しないでください。
電池内部でショート状態となり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

⚠ 危険

プラス（＋）とマイナス（－）を針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管したりしないでください。
ショート状態になり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

適切な温度・湿度条件下で使用や保管を行なってください。
充電時温度：0℃～40℃　使用時温度：0℃～50℃
火のそばや炎天下の車中など（60℃以上になるところ）での使用や充電、保管、放置はしないでください。
高温になると安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。10℃以下だと電池の使用可能時間が著しく短くなります。常温（20℃±5℃）でのご使用をおすすめします。
保管時温度：－20℃～35℃
湿度：45%～85%

警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

カメラ・充電器・電池について

⚠ 警告

指定された電池以外を使わないでください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

充電器のACコードは、100～120ボルト、50/60ヘルツ用です。
日本、アメリカ、カナダ、台湾で使用できます。それ以外の国や地域では使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠ 警告

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

ファインダーを通して太陽や強い光を見ないでください。
視力障害や失明の原因になります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

充電器やACアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。
コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に交換をご依頼ください。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。
使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠ 注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。
電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

カメラ・充電器・電池について（続き）

注意

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

充電器やACアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

充電器やACアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時に電源プラグが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、充電器やACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

充電器やACアダプターを、電子式変圧器（海外旅行用の携帯型変圧器など）を介してコンセントに接続しないでください。
故障や火災の原因となります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

はじめに

お買い上げありがとうございます。
ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

電池の模造品にご注意ください。模造品には危険防止用の安全機構が備えられていない場合があり、使用は大変危険です。弊社純正の充電式リチウムイオン電池をお使いください。

内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

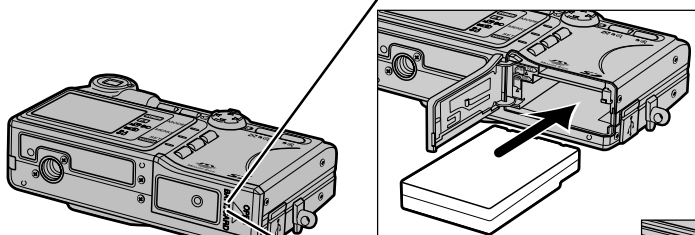
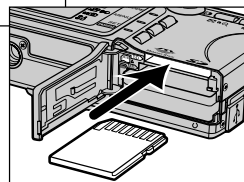
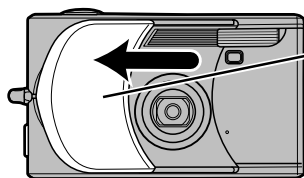
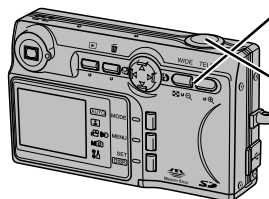
- □ カメラ本体（コニカミノルタ ディマージュ G530）
- □ ネックストラップ NS-DG130
- □ 充電式リチウムイオン電池 NP-600
- □ 充電器 BC-600
- □ SDメモリーカード
- □ USBケーブル USB-810
- □ ディマージュ ビューアー CD-ROM
- ☑ 本使用説明書
- □ DiMAGE Viewer使用説明書（ﾃﾞｨﾏｰｼﾞｭ ﾋﾞｭｰｱｰ）
- □ アフターサービスのご案内
- □ 保証書
- □ コニカミノルタからのお知らせ

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、「コニカミノルタからのお知らせ」に記載の弊社ホームページで、お早めにユーザー登録（オンライン登録）を行なってください。

早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

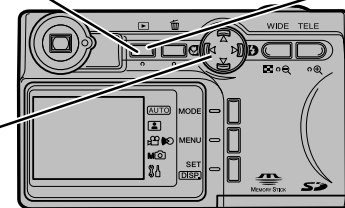
準備をする

1.電池を入れます。→P.21

2.カードを入れます。
→P.24

撮影する

1.スライドカバーを開けて電源を入れます。
→P.33

2.ズームボタンで撮りたいものの大きさを決めます。→P.33
- 右（TELE）側のボタンを押すと望遠に、左（WIDE）側のボタンを押すと広角になります。

3.シャッターボタンを押して撮影します。
→P.34

撮影した画像を確認する→P.39

1.撮影後、再生ボタンを押します。

2.十字キーの左右で見たい画像を選びます。

3.見終わった後、再生ボタンを再度押すか、シャッターボタンの半押しで元の撮影画面に戻ります。

画像を1コマずつ確認して消去する→P.93

1.撮影後、再生ボタンを押します。

2.十字キーの左右で消去したい画像を選びます。

3.消去ボタンを押します。

4.十字キーの上下で「1コマ」を選択します。

5.セット／ディスプレイボタンを押します。
- 「キャンセル」を選択してセット／ディスプレイボタンを押すと、消去されません。

6.確認画面で、十字キーの左右で「はい」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。
- 消去後、再生ボタンまたはシャッターボタンの半押しで元の撮影画面に戻ります。

画像を手早く消去する→P.40

1.撮影後、消去ボタンを押します。

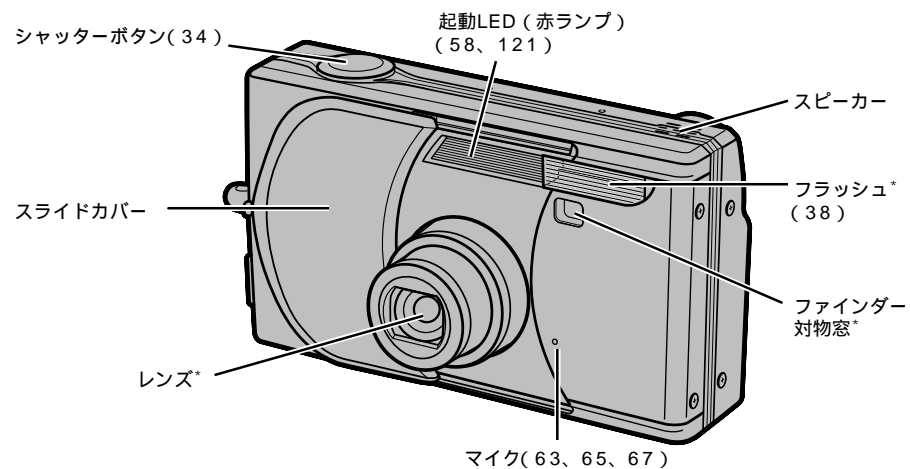
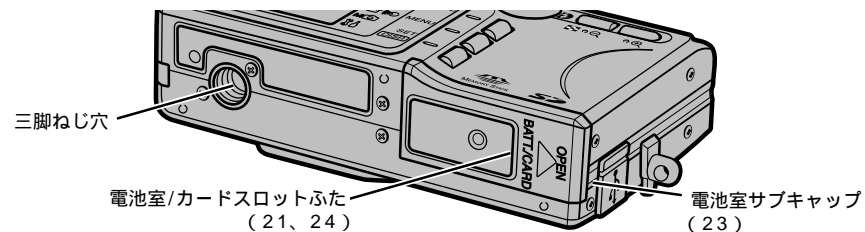
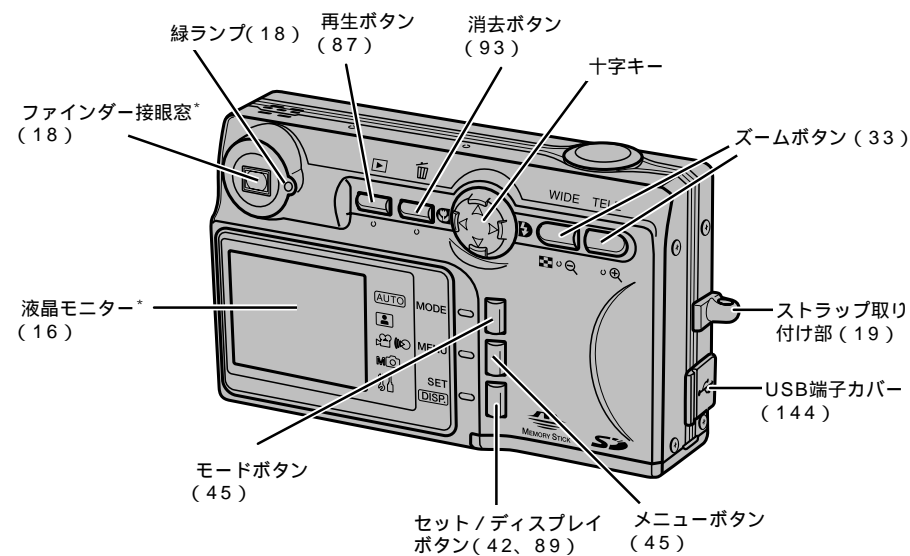
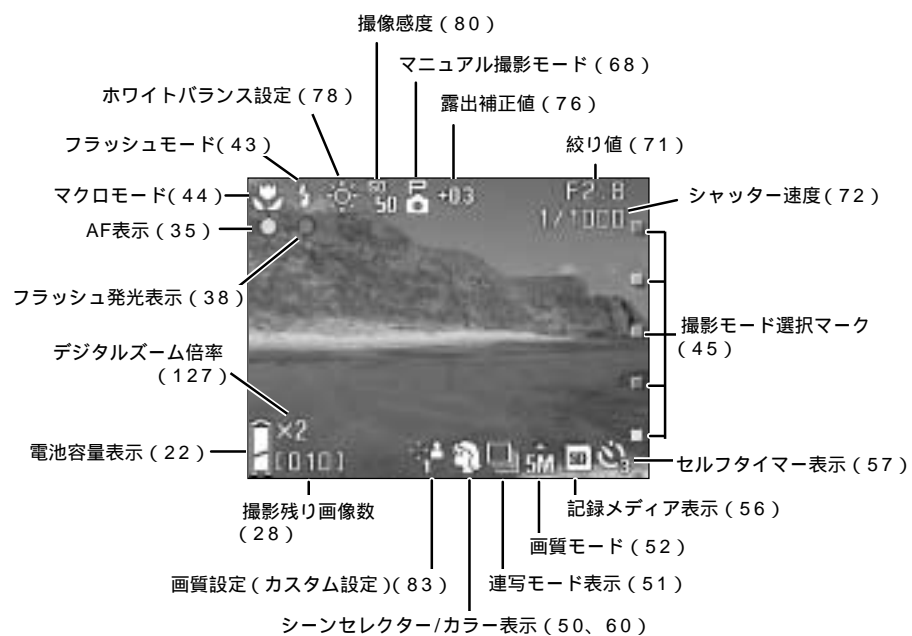
2.十字キーの上下で「1コマ」を選択します。

3.セット／ディスプレイボタンを押します。
- 「キャンセル」を選択してセット／ディスプレイボタンを押すと、消去されません。

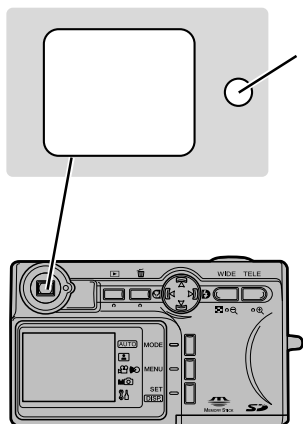
4.確認画面で、十字キーの左右で「はい」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。
- 消去後、通常の撮影画面に戻ります。

各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。(　)内は参照ページです。

ボディ前面

ボディ底面

ボディ背面

液晶モニター（撮影時）

※これらのページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

液晶モニター（再生時）

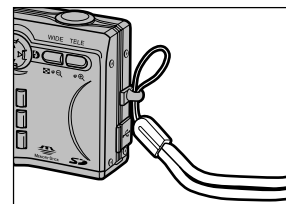
ファインダー

点灯
- 撮影準備完了
- フラッシュ充電中
- カードフォーマット中
- USBケーブル接続中
- カードアクセス中

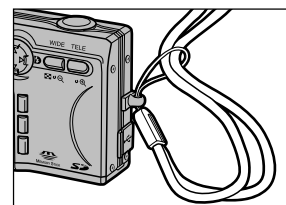
点滅
- 手ぶれ警告（フラッシュオフ時）
- オートフォーカス（AF）不能時
- カードの容量不足／不良／フォーマット異常表示
- 電池残量不足警告
- システムエラー

●緑ランプの点灯中は、電池／カードスロットふたを絶対に開けないでください。データの破損の原因となります。

基本撮影

この章では、カメラの準備および最も基本的な撮影方法・再生方法を説明しています。

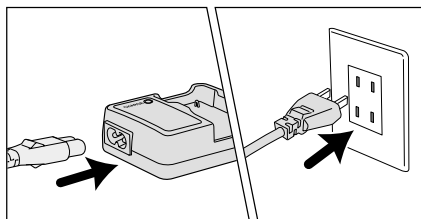
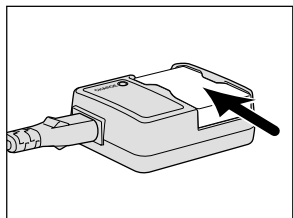
ストラップを取り付ける

1.ストラップ取り付け部に、ストラップの短い方を通します。

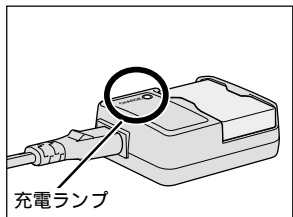
●先端を細くして通してください。

2.通したストラップの輪に、もう一方の端を通して引っ張ります。

電池を入れる

このカメラには、付属の専用電池（充電式リチウムイオン電池NP-600）を使用します。お買い上げの際には電池の充電はされていません。付属の充電器で完全に充電してからお使いください。

● 海外でのご使用については →P.167

電池を充電する

1.電源コードを、充電器の電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

2.電池を充電器に取り付けます。

● 接点部分を先に、文字面を下にして入れてください。

● 充電が開始されます。充電中は赤色の充電ランプが点灯します。

● 充電時間は約120分です。

3.充電ランプが緑色に変われば充電完了です。

● 電池を取り出して、コードをコンセントから抜いてください。

● 電池の充電は、ご使用の直前か前日ぐらいにされることをおすすめします。充電した状態で長時間放置すると、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。

● 電池の状態によっては、充電器に取り付けた後充電開始までに数秒かかることがあります。

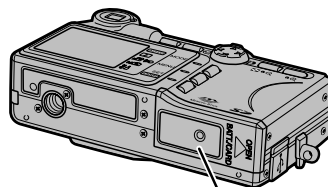
● 電池を保管するときは、ほぼ使い切った状態での保管をおすすめします。フル充電状態での保管は電池の寿命を縮めたり劣化の原因となりますので避けてください。

● 長期間使用しないときは、少なくとも半年に1回5分程度の充電をし、カメラでほぼ使い切った状態にしてから再び保管してください。自然放電により完全に放電してしまうと、充電しても使えなくなることがあります。

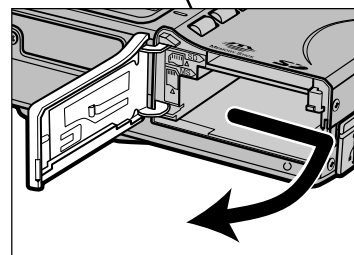
● 充電しても著しく撮影枚数が少ない場合は、電池の寿命です。新しい電池をご購入ください。

● 所定の充電時間を越しても充電が完了しない場合には充電を止めてください。

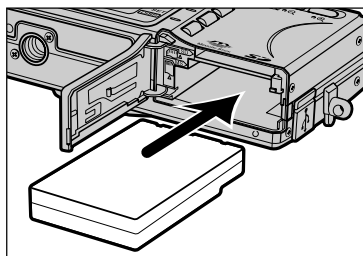
この製品にはリチウムイオン電池を使用しています。不要になった電池は、お住まいの自治体またはリサイクル協力店等の規則に従って、正しくリサイクルしてください。

リサイクル協力店お問い合わせ先
社団法人　電池工業会
TEL:03-3434-0261
ホームページ：http://www.baj.or.jp/

電池を入れる

1.カメラの電源が切れているのを確認します。

※電源を入れる・切る→P.29

2.電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

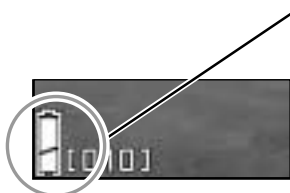
次ページへ続く

電池を入れる（続き）

3.接点を先に、カメラの前面側に向けて電池を入れます。

4.電池室/カードスロットふたを閉じ、カチッと音がするまでスライドさせて元通りに閉めます。

長時間電池を抜いたままにしておくと、日時の設定が失われます。このような場合は電源を入れた時に、日時設定画面が自動的に現れますので、P.31の4.以降に従って日時を設定してください。

電池容量の確認

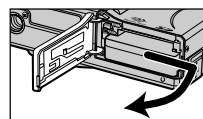
電池の容量は液晶モニターに表示されます。

電池容量は十分です。

電池容量が不足しています。
電池の交換をおすすめします。

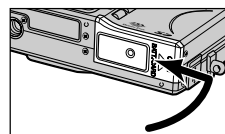
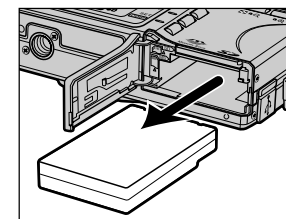
「バッテリーがありません」というメッセージが現れると、シャッターは切れません。電池を充電するか、新しい電池と交換してください。

● 長時間の撮影や再生には、別売りのACアダプターをおすすめします。→P.23

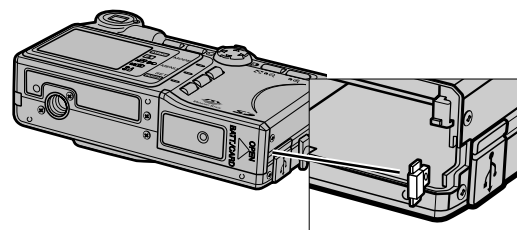
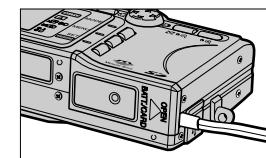
電池を取り出す

1.カメラの電源が切れているのを確認します。

※電源を入れる・切る→P.29

2.電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

3.電池を取り出します。

4.電池を取り出した後、電池室/カードスロットふたを閉じ、カチッと音がするまでスライドさせて元通りに閉めます。

ACアダプター（別売り）

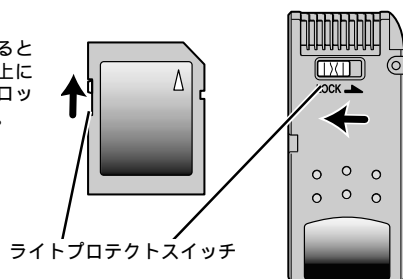
屋内などAC電源が使える場合は、別売りのACアダプター AC-9を使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。ACアダプターの説明書とあわせてお読みください。

接続するときは最初にカメラの電源を切ってください。外す時もカメラの電源を切ってから外してください。 ※電源を入れる・切る→P.29

電池室サブキャップは、電池室の横側にあります。このキャップをはずすと、バッテリータイプアダプターのコードを電池室から逃がすための穴ができます。かたい場合は、ピンセットのようなものを使うと容易に取り外せます。

電池室を閉める時は、バッテリータイプアダプターのコードをはさまないようにしてください。

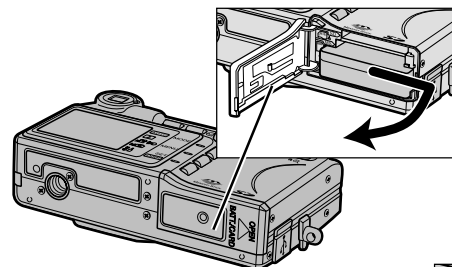
カードを入れる/取り出す

入れ方

画像を記録するには、SDメモリーカードかマルチメディアカード、またはメモリースティック（以下カード）が必要です。付属のSDメモリーカードは、そのままこのカメラに入れてお使いいただけます。

● SDメモリーカードとメモリースティックには、ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチがついています。スイッチをロックすると、書き込みが禁止されてカード内の画像等を保護することができます。撮影する際には、スイッチのロックを解除してください。

カードを入れるには、カメラの電源を切って（レンズカバーを閉じた状態で）、液晶モニターが消灯しているのを確認してから行ってください。電源が入っている間にカードを取り出すと、カメラやカード内のデータが破損する原因となります。

1.カメラの電源が切れているのを確認します。

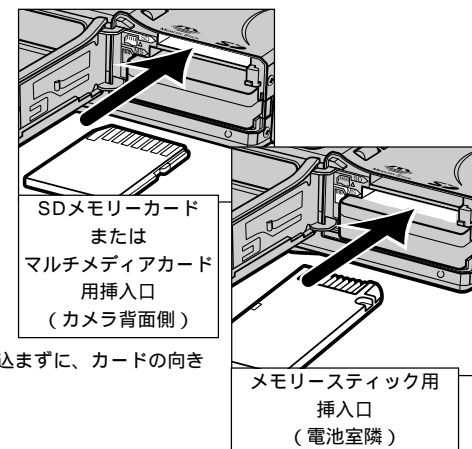
※電源を入れる・切る→P.29

2.電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開きます。

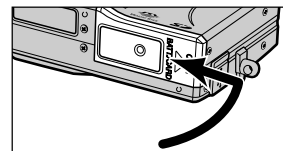
● カメラの底面を下に傾けてふたを開けると、電池が落ちることがあります。

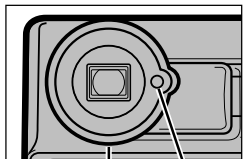
3.カードのラベルをカメラの前面側、接点を背面側に向け、ラベル上の▼マークを挿入口に向けてカチッと音がするまで押し込みます。

● カードスロットは2つあります。カードの種類によって挿入口が違いますので、カードスロット横の表示に従って、正しく入れてください。
● まっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
● カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめて正しく入れ直してください。
● 奥まで入ると、カードはロックされます。

SDメモリーカード
または
マルチメディアカード
用挿入口
（カメラ背面側）

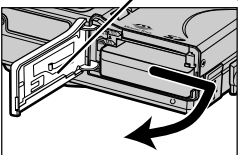
メモリースティック用
挿入口
（電池室隣）

4.電池室/カードスロットふたを閉めます。

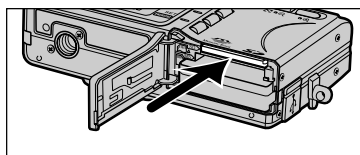
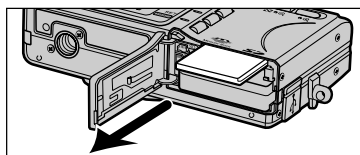
● 最後まで確実に閉めてください。
● 閉まらない場合は、次ページの要領でカードを一度押し込んでから取り出し、向きを確かめて正しく入れ直してください。

● カードを入れないまま電源を入れると、「カードがありません」というメッセージが現れます。
● マルチメディアカードを使用した場合、SDメモリーカードと比べて撮影・再生時の動作応答時間がかなり長くなります。

取り出し方

カードを取り出すには、カメラの電源を切って、ファインダー接眼窓の横の緑ランプが消えているのを確認してから行ってください。電源が入っている間にカードを取り出すと、カメラやカード内のデータが破損する原因となります。

1.カメラの電源が切れているのを確認します。

※電源を入れる・切る→P.29

2.電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

3.カードをカチッと音がするまで中に押し込みます。

●ロックが外れ、カードが出てきます。

4.カードを取り出し、ふたを閉めます。

優先メモリーについて

このカメラでは、SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）と、メモリースティックを使用できます。2種類のメディアを使用する場合、画像が記録される方のメディアをこのカメラでは、「優先メモリー」と呼びます。

2種類のメディアを使用している場合、画像はSDメモリーカード（またはマルチメディアカード）から先に記録されます（初期設定)。ただし、メディアを1枚だけ使用していて、後からメディアを追加すると先に使用していたメディアが優先メモリーとなります。例えばメモリースティックだけを先に使用していて、後からSDメモリーカード（またはマルチメディアカード）を挿入した場合、優先メモリーはメモリースティックです。

優先メモリ SD TO MS

優先メモリーの容量が無くなった時はもう片方のメディアが優先メモリーとなります。例えば、SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）を優先メモリーとして撮影中に、容量が一杯になると、「優先メモリ SD TO MS」というメッセージが現れ、メモリースティックが優先メモリーとなります。

優先メモリーは変更することもできます。→P.56

SD=SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）の略
MS＝メモリースティックの略

パソコンやプリンタに接続した場合、優先メモリーとして設定・記憶されているカードが、接続機器に認識されます。

撮影できる画像数

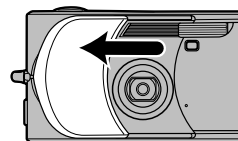
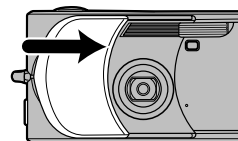
カードを入れ、スライドカバーを開いてカメラの電源を入れると、撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

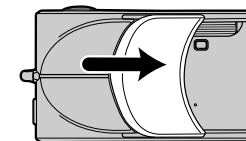
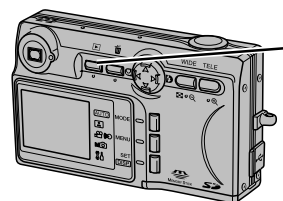
カードの容量に関わらず、1枚のカードで撮影できる枚数は最高999枚です。この範囲において、撮影可能な枚数は、カードの容量やカメラで設定された画質モード（画像サイズおよび圧縮率）によって異なります。例として16MBのSDメモリーカードで初期設定で撮影する場合、記録できる画像数は約10枚です（画像サイズ2592×1944、圧縮率ノーマル）。

● 画質モード（画像サイズ・圧縮率）を変更した場合、またムービー撮影や音声付きで撮影した場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は →P.55

● 液晶モニターに「メモリーがいっぱいです」が表示されたときは、カードの容量がいっぱいです。カードを交換するか、メディアを追加、もしくは画像を消去してください。画質モードを変更すると撮影できることもあります。

● ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては撮影後に、撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。

カメラの電源を入れる・切る

1. スライドカバーを矢印の方向へ、ゆっくりと、カチッと音がするまで開きます。
   ● レンズが前方へ繰り出して、電源が入ります。液晶モニターが点灯し、撮影可能な状態になります。

2. 電源を切るには、スライドカバーを矢印の方向に、カチッと音がするまで少しスライドさせます。
   ● 電源が切れ、液晶モニターが消灯します。レンズが収納されます。

3. スライドカバーを最後まで閉じます。

撮影しないときは、以下の方法で、スライドカバーを開かずにカメラの電源を入れることができます。

1. スライドカバーを閉じているときに、再生ボタンを押します。
   ● 液晶モニターが点灯し、再生画像が表示されます。

2. 再生ボタンを押して電源を切ります。

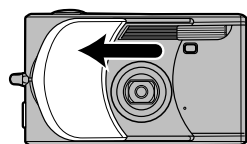
オートパワーオフ（操作しないでいると自動的に電源が切れる）

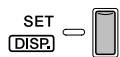
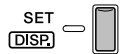
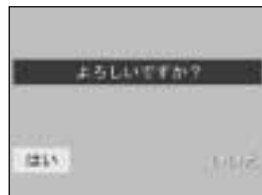
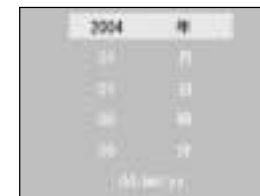
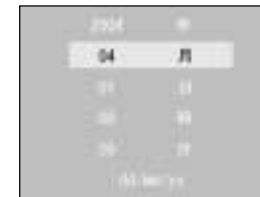
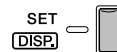
このカメラは、スライドカバーを開けたまま一定時間何も操作をしないでいると、節電のため電源が切れます。

オートパワーオフまでの時間（初期設定は3分）は変更することができます。→P.134

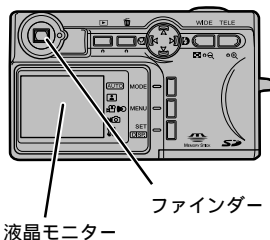
● USBケーブル接続時には、オートパワーオフ機能は働きません。

言語・日時を設定する

カメラをご購入後初めて使用されるときは、言語と日時の設定をしてください。電池を長時間取り出したままにしたときなども、日時の設定が失われることがあります。
設定画面は自動的に現れます。初期設定では、言語は「ENGLISH（英語)」、日時は「2004年1月1日0時0分」になっています。

1.スライドカバーを開くか、再生ボタンを押して、カメラの電源を入れます。
- 言語の設定画面が現れます。

2.十字キーの上下で、希望の言語を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

3.十字キーの左右で「はい」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。
- 「いいえ」を選択すると設定が取り消され、前の画面に戻ります。

4.日時設定画面が現れます。十字キーの上下で修正したい項目を選択します。

5.十字キーの左右で希望の数値を選びます。
- 2050年までの日付が記憶されています。
- 年月日（yy/mm/dd)、月日年（mm/dd/yy)、日月年（dd/mm/yy）の中から並びを選ぶことができます。
- 十字キーを押したまま保持すると、数値が早送りされます。

6.必要なだけ4、5の操作を繰り返します。

7.修正が終了したら、セット／ディスプレイボタンを押します。
- 時計がスタートします。

- 日付・時刻の設定は、カメラに内蔵されているバックアップ電池によって保持されます。バックアップ電池はカメラの電池から充電されますが、電池を入れた状態にして約24時間でフル充電となります。
  バックアップ電池がフル充電されている場合は、電池を抜いたままでも目安として約24時間は設定が保持されます。
  長時間電池を抜いていた場合は、再設定して下さい。（P.136）

カメラを構える

撮影される画像は、ファインダーと液晶モニターで確認することができます。カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

- 脇を閉め、両手でしっかりと構えます。
- レンズやカメラの前面に、特にフラッシュに、指や髪の毛、ストラップ等がかからないようにしてください。
- 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠側で撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります。三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。
- 縦位置での撮影時は、フラッシュが上になるように構えてください。

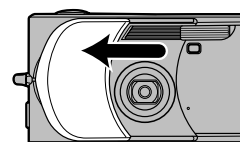
ファインダーを見て撮影する

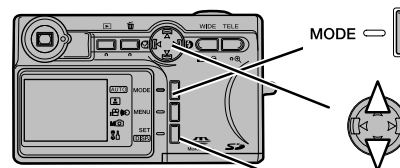
ファインダーをのぞいて撮影すると、カメラをしっかり構えることができ、手ぶれが起こりにくくなります。

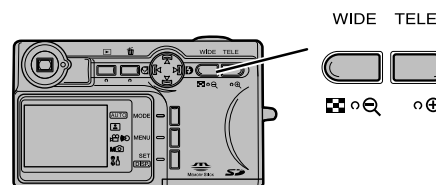
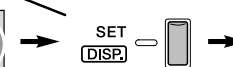
- 広角側で1m、望遠側で3mより近いものを撮影するときは、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲とに差ができます。液晶モニターで構図を決めてください。
- ファインダーを使って撮影するときは、液晶モニターをOFFにすると電池の消耗を軽減することができます。→P.42

液晶モニターを見て撮影する

さまざまなデータが表示されるので便利です。手ぶれが起こりやすいので、ぶれないようにカメラをしっかり構えて撮影してください。

撮影する

1.スライドカバーを開いて電源を入れます。

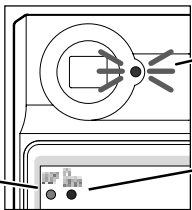
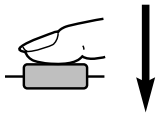
- 液晶モニターが点灯し、撮影可能な状態になります。

2.モードボタンを押し、十字キーの上下でオート撮影モード AUTO を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

- ほとんどの設定をカメラまかせで撮影できます。

3.液晶モニターまたはファインダーを見ながら、ズームボタンで写したいものの大きさを決めます。

- 右側（TELE）のズームボタンを押すと望遠に、左側（WIDE）を押すと広角になります。

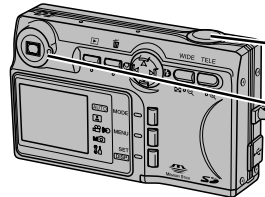
次ページへ続く

4.ピントを合わせたいものに[ ]を合わせて、シャッターボタンを半押しします。

● シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼びます。

● 半押しするとピントが合います。
● ピントが合うと、ファインダー横の緑ランプと液晶モニター内のAF表示が点灯します。効果音を設定している時は、音でもお知らせします。

※ピントが合わないときは →P.36

● フラッシュが発光する時は、液晶モニター内のフラッシュ発光表示も点灯します。

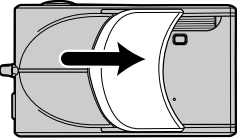
※半押ししたときの表示について →P.35

5.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

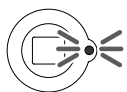
● 撮影された画像が自動的にカードに記録（保存）されます。書き込み中は緑ランプが点灯します。電池室/カードスロットふたを開けないでください。緑ランプの点灯が消灯したら記録の完了です。

● 広角側では約50cm以上、望遠側では約80cm以上カメラから離れたものにピントが合います。それより近くを撮影する場合は、マクロ撮影を行なってください。→P.44
● 撮影後、撮影した画像を液晶モニターに表示させることができます。→アフタービュー、P.123
● シャッターボタンを押し込んだまま指を離さないでいると、連続してシャッターが切れます。

● シャッターボタンを半押ししたときに現れる表示の意味は以下の通りです。

ファインダー横緑ランプ	液晶モニター内AF表示	液晶モニター内フラッシュ発光表示	状況
点灯	点灯	ー	ピントが合っています。撮影できます。 フラッシュは発光しません。
点灯	点灯	点灯	ピントが合っています。撮影できます。 フラッシュが発光します。
点灯	ー	ー	フラッシュが充電中です。 充電が完了するまで撮影できません。
点滅	点滅	ー	ピントが合わない、または撮りたいものに近づき過ぎています（P.36）。撮影はできます。
点滅	ー	点滅	（フラッシュ発光禁止の場合のみ） シャッター速度が遅くなっています。手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

● 撮影後は、スライドカバーを閉じて電源を切ってください。

ピント合わせ

ピント合わせ

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、-¦-の部分にピントが合います。ピントが合うと、ファインダー横の緑ランプと液晶モニター内のAF表示が点灯します。

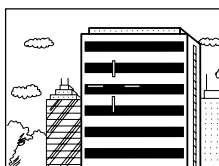
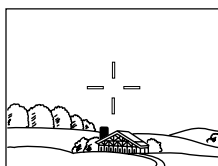
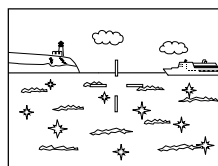
緑ランプとAF表示が点滅したときは、ピントが合っていません。以下を確認してください。

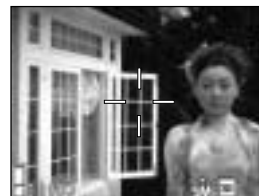
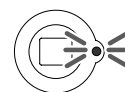
・撮りたいものに近づきすぎていませんか？
広角側では約50cm以上、望遠側では約80cm以上カメラから離れたものにピントが合います。それより近くを撮影する場合は、マクロ撮影を行なってください。→P.44

・オートフォーカスの苦手な被写体（以下参照）を撮影しようとしていませんか？

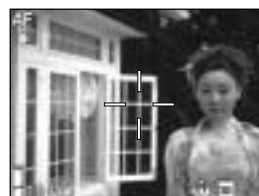
オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、次ページのフォーカスロック撮影かフォーカス固定撮影（P.82）、AFロック（P.70）で、被写体と同じ距離にあるものにピントを固定して撮影してください。

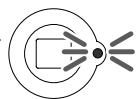
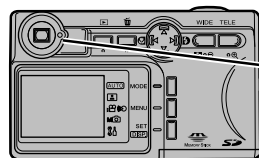
暗すぎるもの

横線だけで
凹凸のないもの

青空や白壁など
コントラストのないもの

太陽のように
明るいものや、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

ピントを合わせたいものが画面中央にないとき

ピントを合わせたいものが画面中央にないときに、そのまま撮影すると、中心部の背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1.ピントを合わせたいものに-¦-を合わせて、シャッターボタンを半押しします。

● ピントが合っていること（ファインダー横の緑ランプが点灯していること）を確認します。
● ピントと同時に露出も固定されます。

2.シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

3.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

フラッシュ撮影

フラッシュが自動発光の場合、必要時には自動的に発光します。

※フラッシュモードを変更するには →P.43

ファインダー横の緑ランプ及び液晶モニター内のフラッシュ発光表示がフラッシュの状態をお知らせします。(下表参照)

ファインダー横緑ランプ	液晶モニター内AF表示	液晶モニター内フラッシュ発光表示	状況
点灯	点灯	点灯	フラッシュが発光します。
点灯	点灯	消灯	フラッシュは発光しません。
点灯	消灯	消灯	フラッシュが充電中です。充電が完了するまで撮影できません。
点滅	点灯／点滅	点滅	(フラッシュ発光禁止の場合のみ) シャッター速度が遅くなっています。手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

フラッシュ光の届く距離

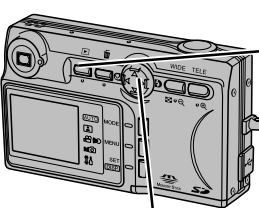
フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では3.0m、最望遠側では1.7mを目安に撮影してください(撮像感度AUTO時)。

● 撮像感度を変更すると、フラッシュ光の届く距離も変わります。→P.81

広角側：0.5～3.0m
望遠側：0.8～1.7m

夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

撮影した画像を確認する／消去する

画像を確認する

1.撮影後、再生ボタンを押します。

● 再生モードに切り替わり、撮影された最新画像が表示されます。

2.十字キーの左右で、見たい画像を選びます。

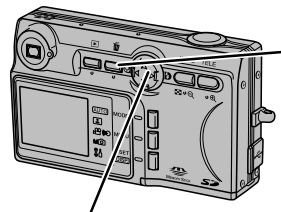
3.再生ボタンを再度押すか、シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。

● ムービー画像の場合はムービー開始時の画像が、ボイスレコードの場合は青い画面が表示されます。→P.92

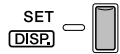
画像を手早く消去する

撮影したばかりの画像をすぐ消去したいときなど、再生モードに切り替えなくても画像を簡単に消去することができます。最新の1コマだけ消去したり、その最新の画像が記録されているメディア内のコマすべてを消去することができます。

※コマを選択して消去するには→P.93

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. 撮影後、消去ボタンを押します。

● 右の画面が表示されます。最新画像が表示されています。

SET
DISP.

2. 十字キーの上下で希望の設定を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

● 表示中の画像1コマのみを消去する場合は「1コマ」を、表示されたメディア内の画像をすべて消去したい場合は「全コマ」を選択します。

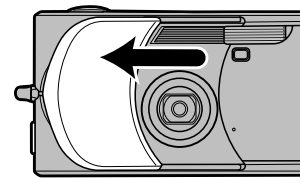
● 「選択コマ」を選んだ場合→P.94

● 「キャンセル」を選択してセット／ディスプレイボタンを押すと、消去をやめ、通常の撮影画面に戻ります。

3. 右の確認画面が表示されます。実行する場合は、十字キーの左右で「はい」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

4. 消去が開始され、「消去中です」画面が表示されます。消去が完了すると通常の撮影画面に戻ります。

● 撮影した画像がない場合は、「データがありません」と表示されます。

応用撮影

この章では、撮影時の各種設定について説明しています。

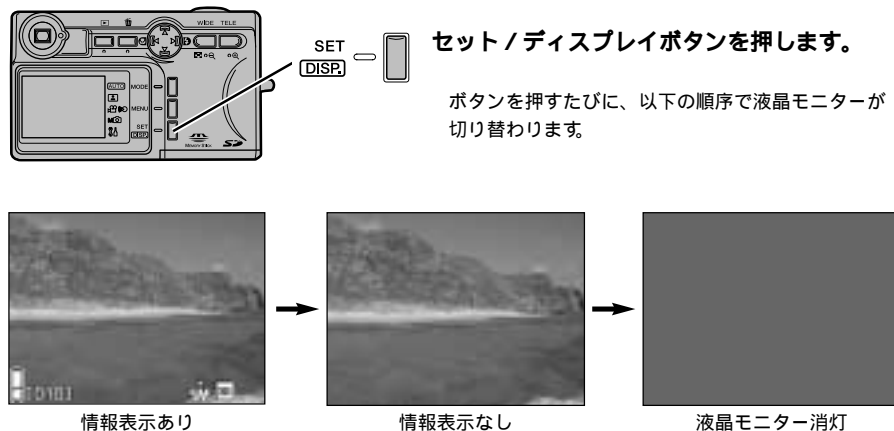
スライドカバーを開くと、カメラは撮影可能な状態になります。スライドカバーを開いた状態で再生している時は、再生ボタンを押すと、撮影可能な状態になります。

液晶モニター表示の切り替え（撮影時）

液晶モニターの表示を切り替えることができます。

セット／ディスプレイボタンを押します。

● ボタンを押すたびに、以下の順序で液晶モニターが切り替わります。

情報表示あり　　情報表示なし　　液晶モニター消灯

● 上記中央の状態（情報表示なし）でも、AF表示、フラッシュ発光表示、画質モード、記録メディアなどの撮影データは、シャッターボタンを半押ししている間表示されます。また、警告メッセージも現れます。
● この使用説明書では、情報表示ありの状態（左端）で説明しています。
● 液晶モニターを消灯させると、電池の消耗を減らすことができます。このときはファインダーを使って撮影してください。

フラッシュモードの切り替え

十字キーの右側を押すと、以下の順序でフラッシュモードが切り替わります。

液晶モニターの左上に設定したフラッシュモードが表示されます。

表示なし

自動発光

フラッシュは必要時には自動的に発光します。フラッシュが発光するときは、シャッターボタンは半押しで液晶モニターに とフラッシュ発光表示が点灯します。

強制発光

フラッシュは必ず発光します。屋外の人物撮影で顔の影をやわらげたい時や逆光の時などにお使いください。

発光禁止

フラッシュは発光しません。美術館などフラッシュの使用が禁止されている場合にお使いください。夜景撮影では、スローシャッターを使用することをおすすめします。→P.86
液晶モニター内のフラッシュ発光表示が点滅したときは、シャッター速度が遅くなりますので、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

● セットアップメニューの「撮影モード」の設定（P.124 ）で、「赤目軽減」の設定を「オン」に切り替えると、赤目軽減自動発光と赤目軽減強制発光が選択可能になります。（→P.126、赤目軽減発光）

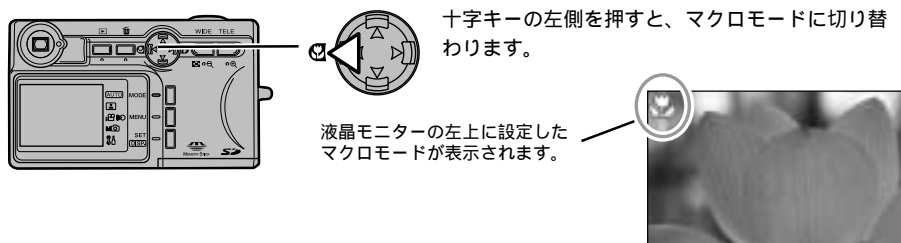
● 設定したフラッシュモードは、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。
●フラッシュモードごとに、最長シャッター速度の設定を変更することができます。夜景などを明るく撮影したい時などに便利です。（→P.86、スローシャッター）

※マニュアル露出モードで、フラッシュモードを切り替えるには→P.74

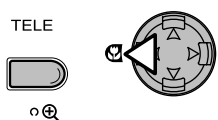
マクロモードの選択

ズーム広角側では、レンズ先端から約5cmまで、望遠側では約50cmまで近づいて撮ることができます。

十字キーの左側を押すと、マクロモードに切り替わります。

液晶モニターの左上に設定したマクロモードが表示されます。

● 調光距離の範囲外でフラッシュを使用すると、正しい露出が得られません。また、フラッシュ光がレンズでさえぎられて画面に影ができることがあります。

※フラッシュ光の届く距離→P.38

● マクロモードでは、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲とに差がありますので、液晶モニターで構図を決めてください。
● 近距離撮影の場合は、手ぶれを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。
● 設定したマクロモードは、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。
● 十字キーの左側を再度押すと、マクロモードは解除されます。

TELE

スーパーマクロモード

ズームボタンを望遠側（TELE）いっぱいに押した後に十字キーの左側を押すと、「スーパーマクロモード」となり、望遠側での撮影がさらに近距離（20cm～40cm）で行えます。

● 液晶モニター内の表示が から に切り替わります。

撮影モードの選択

被写体や撮影状況に合わせてさまざまな撮影モードが選択できます。
選択できる撮影モードおよび各モードのメニュー項目については、P.46-48をご覧ください。

撮影モードを選択する

MODE

1.スライドカバーを開いて電源を入れた後、モードボタンを押します。

2.十字キーの上下で希望の撮影モードを選択します。

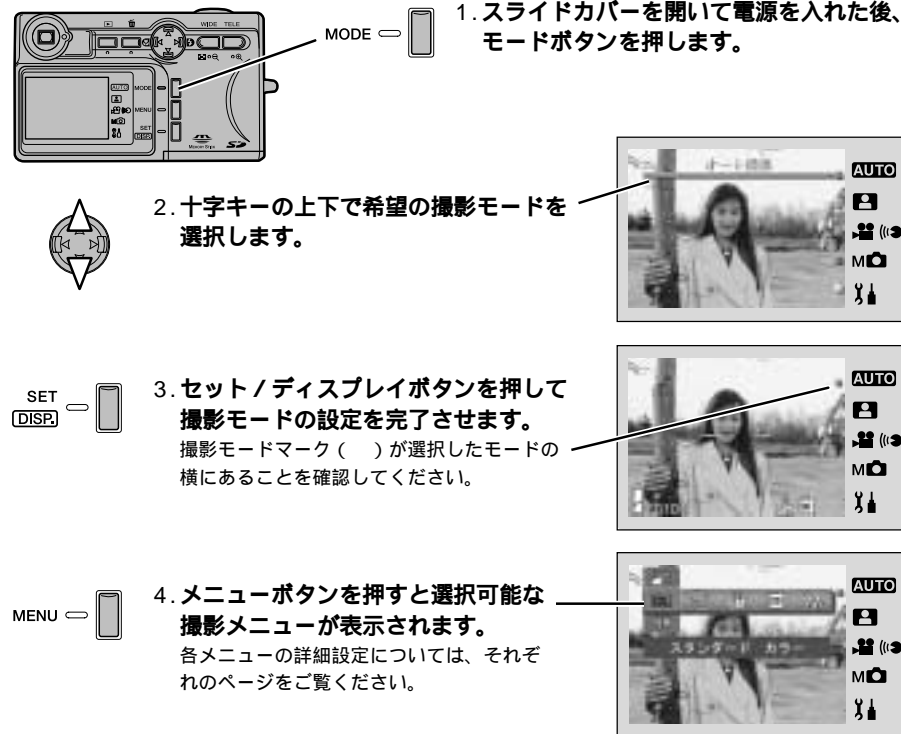
SET
DISP.

3.セット／ディスプレイボタンを押して撮影モードの設定を完了させます。

● 撮影モードマーク（■）が選択したモードの横にあることを確認してください。

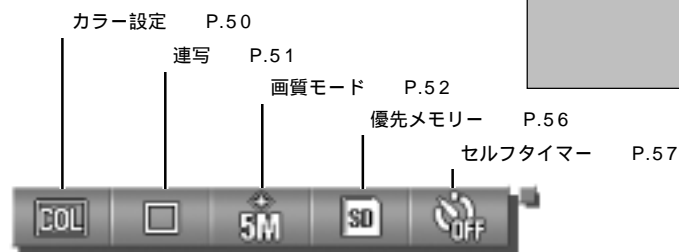
MENU

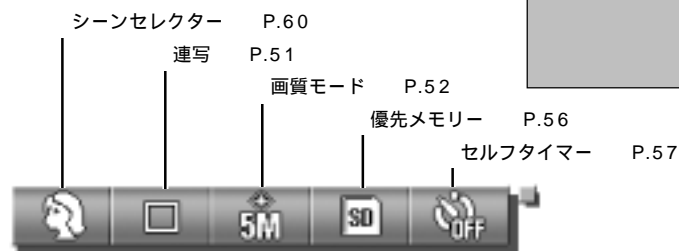
4.メニューボタンを押すと選択可能な撮影メニューが表示されます。

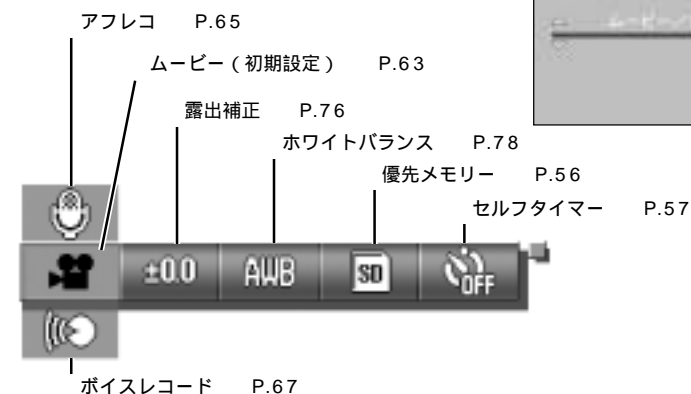
● 各メニューの詳細設定については、それぞれのページをご覧ください。

選択できる撮影モード

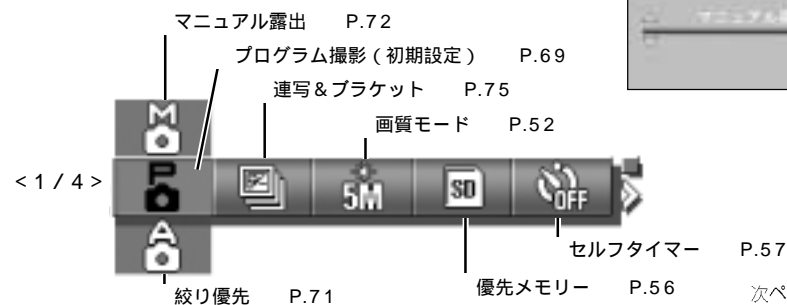
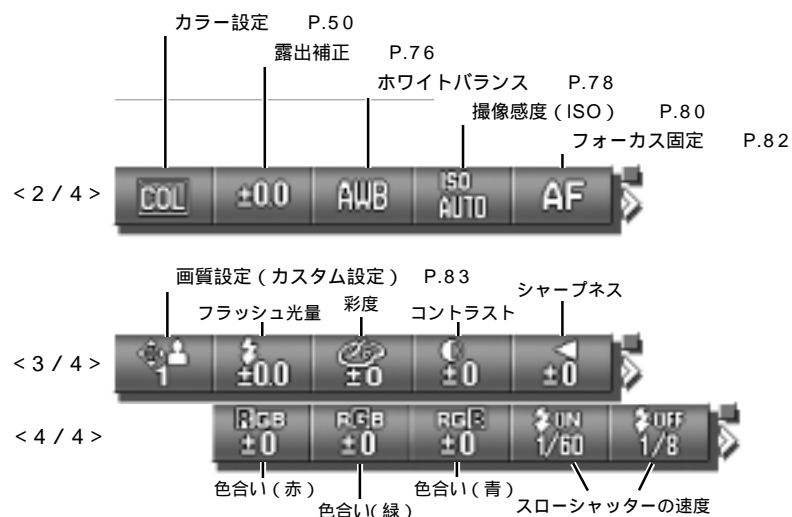
※各メニューの設定方法及び詳細については、
各参照ページをご覧ください。

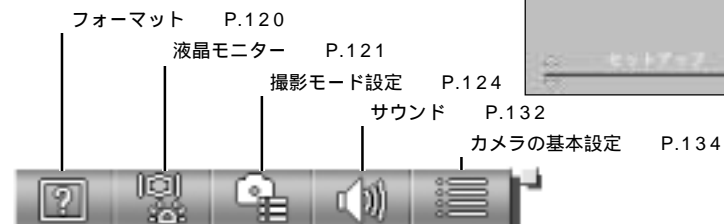
AUTO オート撮影モード →P.49

通常モードです。ほとんどの設定をカメラまかせで
撮影できます。

シーンセレクターモード →P.59

撮影シーンに合わせたモードで撮影できます。

ムービー／音声モード →P.62

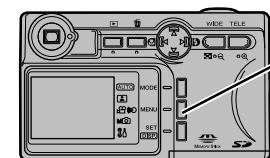
音声付きのムービー撮影などが行えます。

マニュアル撮影モード →P.68

より細かな設定で思い通りの撮影ができるモードです。

次ページへ続く

セットアップモード →P.118

自分に合った使いやすい状態でカメラを使用することができます。

オート撮影モードメニューの選択

設定できるメニュー

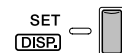
- ● カラー設定（P.50）
- ● 連写（P.51）
- ● 画質モード（P.52）
- ● 優先メモリー（P.56）
- ● セルフタイマー（P.57）

1. P.45の要領で、撮影モードをオート撮影 AUTO に設定します。

MENU

2. メニューボタンを押し、設定可能なメニューのアイコンを表示させます。

3. 十字キーの左右で希望のメニューを選択します。

4. 十字キーの上下でメニューの中から希望のモードを選択します。

SET DISP.

5. セット／ディスプレイボタンを押すと設定が完了します。液晶モニターには選択したモードが表示されます。

●続けて他のメニューも設定する場合はセット／ディスプレイボタンを押さずに、十字キーの左右で設定するメニューを選択します。

カラーモード

通常のカラー撮影の他に、白黒やセピア色など色の効果を変えて撮影することもできます。

設定内容　◎は初期設定値です。

◎	COL	スタンダードカラー	通常のカラー撮影モードです。
	B/W	白黒	白黒で撮影ができます。
	SEPI	セピア	セピア色で撮影ができます。
	W	W（ウォーム）カラー	暖色系の色相で、被写体をやわらかく表現します。人物や夕焼けなどの撮影に適しています。
	C	C（コールド）カラー	寒色系の色相で、被写体をくっきりと再現します。風景などの撮影に適しています。

MENU

1. P.49の要領で、オート撮影モードメニューのアイコンを表示させ、十字キーの左右で「カラー設定」のメニューを選択します。

2. 十字キーの上下で希望のカラーモードを選択します。

3. セット／ディスプレイボタンを押して設定を完了させます。

● 液晶モニターに選択したカラーモードが表示されます。

● 「マニュアル撮影→P.68」のモードメニューでも設定可能です。

● 選択したカラー設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

連写モード

シャッターボタンを押している間、連続して撮影ができます。
動きのある被写体を連続的に撮影するときに適したモードです。

設定内容　◎は初期設定値です。

◎	□	1コマ撮影モード	1枚ずつ撮影する場合に設定します。
	⧉	連写モード	連続して撮影する場合に設定します。 ピントと露出は1コマ目で固定されます。 連写モードでの連続撮影可能枚数は下記の通りです。 5メガ（2592 x 1944） ファイン：約3枚 5メガ（2592 x 1944 ）ファイン以外：制限なし ● 画質によっては撮影間隔が長くなることがあります。

1. P.49の要領で、オート撮影モードメニューのアイコンを表示させ、十字キーの左右で「連写設定」のメニューを選択します。

2. 十字キーの上下で希望の連写モードを選択します。

3. セット／ディスプレイボタンを押して設定を完了させます。

● 液晶モニターに選択した連写モードが表示されます。

● 「シーンセレクター→P.60」,「マニュアル撮影→P.68」のモードメニューでも設定可能です。

● 選択した連写設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

画質モード

目的に応じて画質モード（画像サイズと圧縮率）を選択することができます。
以下の5つのモードから選ぶことができます。

設定内容　◎は初期設定値です。

5M（★★★） 5メガ　ファイン　：2592x1944
このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする場合*におすすめします。約500万画素の画像が撮影できます。
*A5(210mm×148mm)～A3(420mm×297mm)程度
低めの圧縮率で記録します。ファイルサイズは大きくなり、記録枚数は減ります。

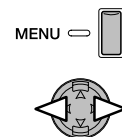
◎ **5M（★）** 5メガ　ノーマル　：2592x1944
このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする場合*におすすめします。約500万画素の画像が撮影できます。
*A5(210mm×148mm)～A3(420mm×297mm)程度
高めの圧縮率で記録します。ファイルサイズは小さくなり、記録枚数は増えます。

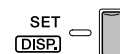
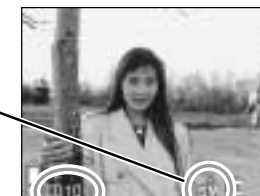
3M 3メガ　ノーマル　：2048x1536
パソコンに取り込んで編集するときや、やや大きめにプリントする場合**におすすめします。約310万画素の画像が撮影できます。
**2L判(178mm×127mm)～A4(297mm×210mm)程度

2M 2メガ　ノーマル　：1600x1200
パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする場合***におすすめします。約190万画素の画像が撮影できます。
***L判(127mm×89mm)～A5(210mm×148mm)程度

VGA VGA　ノーマル　：640x480
1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

ここでいうプリントとは、印刷解像度300dpi～150dpiの場合を指しています。

MENU

1. P.49の要領で、オート撮影モードメニューのアイコンを表示させ、十字キーの左右で「画質モード設定」のメニューを選択します。

2. 十字キーの上下で希望の画質モードを選択します。

3. セット／ディスプレイボタンを押して設定を完了させます。
● 液晶モニターに選択した画質モードが表示されます。

● 同じカード上で、各画像ごとに異なる画質モードを設定することができます。画質モードを切り替えるたびに撮影可能な枚数も変更されます。撮影可能枚数は液晶モニター上に表示されます。

● 「シーンセレクター→P.60」，「マニュアル撮影→P.68」のモードメニューでも設定可能です。

● 選択した画質モード設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

次ページへ続く

画像サイズと圧縮率について

画像サイズについて

デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ2592×1944画素の場合、画像は横に2592、縦に1944に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数（記録画素数）を表し、画素 または ピクセル、ドットといった単位で表されます。

画像をプリント（印刷）する場合は、大きなサイズで撮影しておくほどきれいにプリントできますが、1枚当たりのファイルサイズ（データ量）が大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。ご使用のカード容量や用途に合わせてお選びください。

圧縮率について

画像を圧縮しないとファイルサイズ（P.55）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。ファインは圧縮率が小さく、ノーマルは圧縮率がファインよりも大きくなります。ノーマルよりもファインの方が高画質ですが、高画質になるほど1枚当たりのファイルサイズが大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。また、JPEG形式の画像は保存すると圧縮率が大きいほど画質は劣化します。いったん劣化した画像を撮影後にパソコン等で復元することはできません。特に後で画像の加工や編集を行う場合、保存の作業のたびに画質は劣化しますので、撮影はファインの設定で行なうことをおすすめします。

このカメラでは、画像がJPEG（ジェイペグ）形式で圧縮されて記録されます。圧縮率の大きい方がファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。

ファイルサイズと撮影画像数について

画像サイズと圧縮率によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と、例として16MBの1枚のSDメモリーカードに記録できる撮影画像数は以下の通りです。

● 下記の値は被写体によって異なるため、撮影のたびに変動します。あくまでも目安とお考えください。

ファイルサイズ

画像モード	ファイルサイズ
2592x1944 ファイン	約2,100KB
2592x1944 ノーマル	約1,250KB
2048x1536 ノーマル	約750KB
1600x1200 ノーマル	約400KB
640x480 ノーマル	約100KB
動画（320x240）	約180KB/秒
ボイスレコード	約8KB/秒

16MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数

画像モード	16MB
2592x1944 ファイン	約6コマ
2592x1944 ノーマル	約10コマ
2048x1536 ノーマル	約17コマ
1600x1200 ノーマル	約33コマ
640x480 ノーマル	約133コマ
動画（320x240）	計 約70秒
ボイスレコード	計 約28分30秒

優先メモリー

カメラ内に、SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）とメモリースティックの2種類のメディアを入れた場合、どちらのメディアから先に記録するか（優先メモリー）を選択できます。

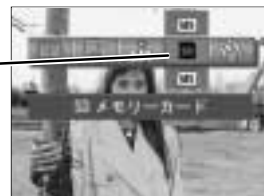
※優先メモリーについて→P.27

設定内容　◎は初期設定値です。

◎ SD　SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）から先に記録します。

MS　メモリースティックから先に記録します。

MENU

1. P.49の要領で、オート撮影モードメニューのアイコンを表示させ、十字キーの左右で「優先メモリー設定」のメニューを選択します。

2. 十字キーの上下で優先させるメディアの種類を選択します。

3. セット／ディスプレイボタンを押して設定を完了させます。

● 液晶モニターに選択したメディアの種類が表示されます。

●「シーンセレクター→P.60」、「ムービー／音声→P.62」、「マニュアル撮影→P.68」のモードメニューでも設定可能です。

● 選択した優先メモリーは、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

セルフタイマー

シャッターボタンを押してから約10秒後、または約3秒後に撮影することができます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

設定内容　◎は初期設定値です。

◎	OFF	セルフタイマーオフ	セルフタイマーは作動しません。
	10	セルフタイマー（10秒）	シャッターボタンを押してから約10秒後にシャッターが切れます。
	3	セルフタイマー（3秒）	シャッターボタンを押してから約3秒後にシャッターが切れます。

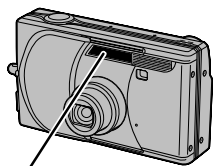
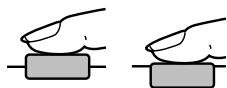
1. P.49の要領で、オート撮影モードメニューのアイコンを表示させ、十字キーの左右で「セルフタイマー設定」のメニューを選択します。

2. 十字キーの上下で希望の設定を選択します。

3. セット／ディスプレイボタンを押して設定を完了させます。

● 液晶モニターに選択したセルフタイマーの設定が表示されます。

次ページへ続く

セルフタイマー（続き）

赤ランプ

4.ピントを合わせたいものに-¦-を合わせて、シャッターボタンを押して撮影します。

- ピント及び露出はシャッターが切れる直前に合います。
- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面の赤ランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー作動中はランプと同様に音でもお知らせします。音を消すこともできます。→P.132

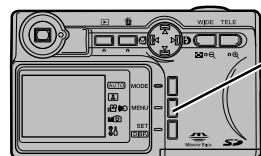
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、スライドカバーを閉じてください。
- 撮影後、10秒セルフタイマーモードは解除されます。3秒セルフタイマーモードは解除されません。
- 電源を入れ直しても、セルフタイマーモードは保持されます。
- 通常の撮影に戻すときは「セルフタイマーオフ」を選択してください。

- 「シーンセレクター→P.60」、「ムービー／音声→P.62」、「マニュアル撮影→P.68」のモードメニューでも設定可能です。

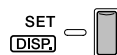
シーンセレクターモードメニューの選択

設定できるメニュー

- シーンセレクター（P.60）
- 連写（P.51）
- 画質モード（P.52）
- 優先メモリー（P.56）
- セルフタイマー（P.57）

1.P.45の要領で、撮影モードをシーンセレクター に設定します。

2.メニューボタンを押し、設定可能なメニューのアイコンを表示させます。

3.十字キーの左右で希望のメニューを選択します。

4.十字キーの上下でメニューの中から希望のモードを選択します。

5.セット／ディスプレイボタンを押すと設定が完了し、撮影可能な状態になります。液晶モニターには選択したモードが表示されます。

- 続けて他のメニューも設定する場合はセット／ディスプレイボタンを押さずに、十字キーの左右で設定するメニューを選択します。

シーンセレクター

撮影シーンに合わせたモードで撮影ができます。
暗い場所では手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

設定内容 ◎は初期設定値です。

◎ ポートレート　背景をぼかし、人物を浮き立たせたいときに使うモードです。
立体感のあるソフトなポートレート写真が撮影できます。

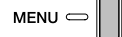
風景　風景や建物などを撮影するときに適したモードです。

夜景ポートレート　夜景や夕暮れ、またはそれをバックにした人物のフラッシュ撮影などに適したモードです。
手ぶれを防ぐために、三脚のご使用をおすすめします。

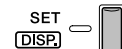
スナップ　スナップ撮影に適したモードです。約0.8m～2.5mまでの被写体を撮影できます。
ズーム位置は広角（W）側での使用が効果的です。

スポーツ　スポーツシーンなど動きの速い被写体を撮影するときに適したモードです。

エンジェル　肌色を美しく再現し、シャッターレスポンスを優先しますので、笑顔の瞬間を捕らえやすくなるなど、子供や女性を撮影するのに適したモードです。

MENU

1. P.59の要領で、シーンセレクターモードメニューのアイコンを表示させ、十字キーの左右で「シーンセレクター」のメニューを選択します。

2. 十字キーの上下で希望の撮影シーンモードを選択します。

SET
DISP.

3. セット／ディスプレイボタンを押して設定を完了させます。

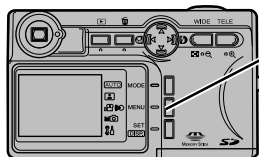
● 液晶モニターに選択した撮影シーンモードが表示されます。

● 選択した撮影シーンモードは、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

ムービー／音声モードメニューの選択

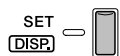
設定できるメニュー

- ● ムービー：初期設定（P.63）　● アフレコ（P.65）
- ● ボイスレコード（P.67）　● 露出補正（P.76）
- ● ホワイトバランス（P.78）　● 優先メモリー（P.56）
- ● セルフタイマー（P.57）

1. P.45の要領で、撮影モードをムービー／音声 に設定します。

MENU

2. メニューボタンを押し、設定可能なメニューのアイコンを表示させます。

3. 十字キーの左右で希望のメニューを選択します。

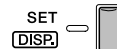
4. 十字キーの上下でメニューの中から希望のモードを選択します。

5. セット／ディスプレイボタンを押すと設定が完了し、撮影可能な状態になります。液晶モニターには選択したモードが表示されます。

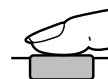
● 続けて他のメニューも設定する場合はセット／ディスプレイボタンを押さずに、十字キーの左右で設定するメニューを選択します。

ムービー撮影

音声付きのムービー撮影ができます。

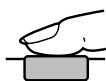
1. P.62の要領で、ムービー／音声モードメニューのアイコンを表示させ、十字キーの左右で「ムービー」メニューを選択し、十字キーの上下で「ムービー」モードを選択します。

SET
DISP.

2. セット／ディスプレイボタンを押すとムービー画面が表示され、撮影可能な状態になります。

● モードボタンを押すと設定がキャンセルされて前の画面に戻ります。

3. シャッターボタンを押して撮影を開始させます。

● 撮影中は画面右上に経過時間が表示され、アイコンが赤く点灯します。

● シャッターボタンを押し続ける必要はありません。

次ページへ続く

4.撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

● 残り時間が無くなるとシャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

※ムービーの再生→P.92

5.ムービー撮影を行なわない場合は、P.45の要領で、撮影モードを「ムービー／音声」以外のモードに変更します。

ムービー撮影時の注意事項

● ムービー撮影は液晶モニターを見ながら行なってください。ファインダーを使っての撮影はできません。
● 撮影開始と同時に音声が録音されますので、撮影中に指などでカメラ本体前面のマイク（→P.14）をふさがないようご注意ください。
● ピント位置はムービー撮影開始時に固定されます。ムービー撮影中はオートフォーカスは作動しません。
● シャッターボタンを押した後（ムービー撮影中）は、光学ズームはできません。
● デジタルズーム機能（→P.127）は使用できません。
● 音声なしのムービー撮影はできません。
● マルチメディアカードを使用した場合、録画時間は30秒に制限されます。
● カードへの記録速度の関係上、カードによってはまれに、撮影残り時間があっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。

● ムービー撮影は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

アフレコ

撮影済みの静止画像に音声を付けることができます。また、付けた音声を消去したり録音し直すこともできます。

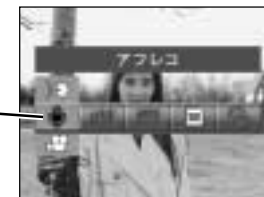
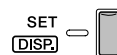
*アフレコ ＝ アフターレコーディング（After recording）の略

● ムービー画像やボイスレコード、プロテクトされた画像にはアフレコを付けることはできません。

※プロテクトの解除→P.113

● すでに録音したアフレコに、音声を直に上書きすることはできません。一度音声を消去してから、アフレコし直してください（次ページ）。

1.P.62の要領で、ムービー／音声モードメニューの中から「ムービー」メニューを選択し、十字キーの上下で「アフレコ」モードを選択します。

SET
DISP.

2.セット／ディスプレイボタンを押すと撮影済みの画像が再生されます。十字キーの左右で、音声を付けたい画像を選びます。

● メニューボタンを押すと設定がキャンセルされて前の画面に戻ります。

3.シャッターボタンを押すとすぐに録音が開始されます。マイク（P.14）に向かって話します。

● マイクから20cmくらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。
● 録音中は画面右上に経過時間が表示され、アイコンが赤く点灯します。

4.録音を終了するには、シャッターボタンを押します。

● 残り時間がなくなると、自動的に録音が終了します。

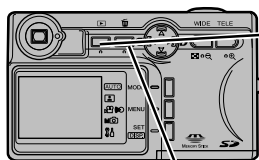
● マルチメディアカードを使用した場合、録音時間は30秒に制限されます。

次ページへ続く

アフレコ（続き）

●アフレコは、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

●アフレコを付けた画像には、液晶モニターに アイコンが表示されます。音声を再生するには、再生モードで画像を表示させ、シャッターボタンを押してください。→P.92

録音済みのアフレコを消去する

1.再生ボタン を押し、十字キーの左右でアフレコを消去したい画像を表示させ、消去ボタン を押します。

2.十字キーの上下で希望の設定を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

●選択した画像のアフレコのみ消去する場合は「音声」を、画像とアフレコを一緒に消去したい場合は「音声＆画像」を選択します。消去を実行しないときは「キャンセル」を選択します。

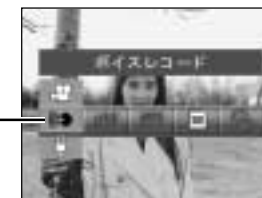
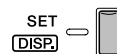
3.「消去中です」表示が消灯すると消去が完了します。

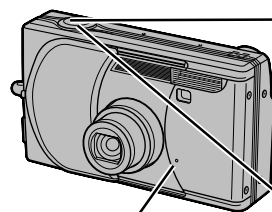
●録音し直す場合は、録音した音声を一度消去してから、P.65の操作で録音し直してください。

ボイスレコード

音声のみの録音ができます。

1.P.62の要領で、ムービー／音声モードメニューの中から「ムービー」メニューを選択し、十字キーの上下で「ボイスレコード 」モードを選択します。

SET
DISP.

2.セット／ディスプレイボタンを押すとボイスレコード画面が表示され、録音可能な状態になります。

●メニューボタンを押すと設定がキャンセルされて前の画面に戻ります。

マイク

3.シャッターボタンを押すとすぐに録音が開始されます。マイクに向かって話します。

●マイクから20cmくらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

●録音中は液晶モニターの画面右上に経過時間が表示され、 アイコンが赤く点灯します。

4.録音を終了するには、もう一度シャッターボタンを押します。

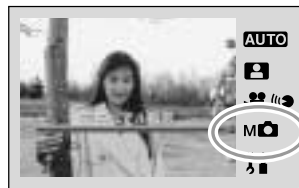
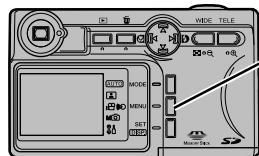
●残り時間がなくなると、自動的に録音が終了します。

●長時間の録音には、別売りのACアダプターの使用をおすすめします。

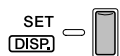
●マルチメディアカードを使用した場合、録音時間は30秒に制限されます。

●ボイスレコードは、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

マニュアル撮影モードメニューの選択

設定できるメニュー
- 撮影モード：プログラム（P.69）／絞り優先（P.71）／マニュアル露出（P.72）
- 連写＆ブラケット（P.75）　● 画質モード（P.52）
- 優先メモリー（P.56）　● セルフタイマー（P.57）
- カラー設定（P.50）　● 露出補正（P.76）
- ホワイトバランス（P.78）　● 撮像感度（P.80）
- フォーカス固定（P.82）　● 画質設定（ P.83）

1. P.45の要領で、撮影モードをマニュアル撮影 M に設定します。

2. メニューボタンを押し、設定可能なメニューのアイコンを表示させます。

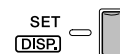
3. 十字キーの左右で希望のメニューを選択します。

4. 十字キーの上下でメニューの中から希望のモードを選択します。

5. セット／ディスプレイボタンを押すと設定が完了し、撮影可能な状態になります。液晶モニターには選択したモードが表示されます。

● 続けて他のメニューも設定する場合はセット／ディスプレイボタンを押さずに、十字キーの左右で設定するメニューを選択します。

プログラム撮影モード

被写体の明るさに応じて、シャッター速度と絞りをカメラが自動的に設定します。
初期設定モードです。

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニューの中からプログラム撮影メニューを選択し、十字キーの上下で「プログラム撮影 」モードを選択します。

2. セット／ディスプレイボタンを押して設定を完了させます。

● 液晶モニターには アイコンが表示されます。

「オート撮影」と「プログラム撮影」の違い

自動的に設定されるシャッター速度と絞り値の組み合わせは同じですが、「プログラム撮影」でシャッターボタンを半押しすると、液晶モニター上に絞り値とシャッター速度が表示されます。
また、「プログラム撮影」では次の機能が使用できますが、「オート撮影」ではできません。（→P.70）
- AF（ピント）を固定して撮影ができます。
- AE（露出）を固定して撮影ができます。
- ホワイトバランスの切り替えや露出補正が行えます。
- 撮像感度の任意設定、画質設定（カスタム設定）、ブラケット撮影が行えます。

● 選択したプログラム撮影の設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。
プログラム撮影モードを解除するときは、同じ要領で設定を変更してください。

AFロック（ピントを固定して撮影する）

フォーカスロック（P.37）しながら（シャッターボタンを半押ししたまま）、十字キーの左側◁を押すと、液晶モニターにAFが表示され、ピントが固定されます。
撮影後もピントは固定されたままになり、ピントを固定したまま繰り返し撮影することができます。

● ズームボタンまたは十字キーの左側◁を押す、もしくは電源オフでAFロックは解除されます。

AEロック（露出を固定して撮影する）

フォーカスロック（P.37）しながら（シャッターボタンを半押ししたまま）、十字キーの上側△を押すと、液晶モニターにAEが表示され、露出が固定されます。
撮影後も露出は固定されたままになり、露出を固定したまま繰り返し撮影することができます。

● ズームボタンを押す、もしくは電源オフでAEロックは解除されます。またはホワイトバランス切り替えで解除されます。

ホワイトバランスの切り替えを行う

撮影時に十字キーの下側▽を押すことでホワイトバランスを固定して撮影することができます。
十字キーの下側▽を押すごとにモードが切り替り、設定されたモードは液晶モニターに表示されます。表示とモードの関係はP.78をご覧ください。

露出補正を行う

撮影時に十字キーの上側△を押すと液晶モニターに露出補正値が表示されます。十字キーの左右◁▷を押すことにより露出補正を行なうことができます。
露出補正はデフォルト値に対して±2.0EVを1/3EVステップで調整できます。

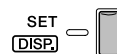
● 十字キーの上側△を押すごとに、十字キーの左右◁▷の機能は切り替わります。
再度、十字キーの上側△を押すと、十字キーの左右◁▷の機能は、「マクロモード（左側◁）」「フラッシュモード（右側 ▷）」に切替わります。

● 十字キーの下側▽では常にホワイトバランスの切り替えが可能です。

絞り優先モード

絞り値を設定すると、シャッター速度が自動的に設定されるモードです。　※「絞り」とは→P.72

● 絞り値はズーム倍率によって変化しますが、倍率ごとに2段階の切り替えが可能です。

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニューの中からプログラム撮影メニューを選択し、十字キーの上下で「絞り優先」モードを選択します。

2. セット／ディスプレイボタンを押して設定を完了させます。

● 液晶モニターには、絞り優先であることを示すマークと絞り値が表示されます。

3. 十字キーの上側を押して、絞り値を白い表示にします。

● 絞り値の左横に▽マークが表示されます。

4. 十字キーの下側で絞り値を設定し、撮影します。

● シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度が表示されます。
● 十字キーの左右◁▷で露出補正を行うことができます。

● 十字キーの上側△を押すごとに、十字キーの下側▽と左右◁▷の機能は切り替わります。
絞り値が白い表示のときは絞り値と露出補正の設定が可能な状態ですが、十字キーの上側△を押すと、▽、◁、▷の機能は、それぞれ「ホワイトバランス（下側▽）」「マクロモード（左側◁）」「フラッシュモード（右側▷）」に切り替わります。
● フラッシュモードで自動発光は選択できません。
●「プログラム撮影（P.69）」と同様に、AFロックおよびAEロックの撮影が可能です（P.70）。
● 選択した絞り優先の設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。
絞り優先モードを解除するときは、同じ要領で設定を変更してください。

マニュアル露出モード

シャッター速度と絞り値を選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときなどに便利です。

● マニュアル露出撮影時に使用できなかったり、設定が固定される機能があります。

※詳しくは→P.74

シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。
シャッター速度を1/1000秒などに速くすると、動いているものがくっきりと止まって写ります（写真左）。逆に1/15秒などに遅くすると、動いているものが流れるように写ります（写真右）。

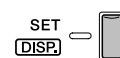
シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき

絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。
絞りが開放の時は、被写体の前後がぼけやすくなります（写真左）。逆に小絞りだと、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります（写真右）。

絞りが開放のとき
（絞り値が小さいとき）

小絞りのとき
（絞り値が大きいとき）

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニューの中からプログラム撮影メニューを選択し、十字キーの上下で「マニュアル撮影 M」モードを選択します。

2. セット／ディスプレイボタンを押して設定を完了させせます。

● 液晶モニターには、マニュアル露出であることを示す M マークとシャッター速度、絞り値が常に表示されます。

3. 十字キーの上側を押して、絞り値とシャッター速度を白い表示にします。

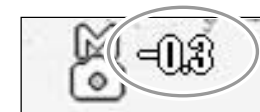
● 数値の左横に矢印マークが表示されます。

4. 十字キーの左右でシャッター速度を設定します。

● シャッター速度は15秒〜1／1000秒の範囲で設定可能です。
● 遅いシャッター速度を設定した場合は、手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

5. 十字キーの下側で絞り値を設定し、撮影します。

● 絞り値はズーム倍率によって変化しますが、倍率ごとに2段階の切り替えが可能です。

● シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターに、カメラが測光した露出値を基準（±0）として、撮影者が選んだシャッター速度と絞り値による露出値が、－2Ev〜＋2Evの範囲で1/3Evごとに表示されます。そのまま撮影すると写真が大幅に露出オーバー／アンダーになる場合は表示が赤になります。

●「プログラム撮影（P.69）」と同様に、AFロックの撮影が可能です（P.70）。
● 選択したマニュアル撮影の設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。
マニュアル撮影モードを解除するときは、同じ要領で設定を変更してください。

次ページへ続く

マニュアル露出撮影時の十字キー操作

通常十字キーの左右には、マクロモードとフラッシュモードがそれぞれ割り当てられていますが、マニュアル露出設定時は、左右がシャッター速度・下側が絞りの変更に使用されます。
十字キーの上側を押すと、シャッター速度/絞りの設定を中断し、マクロモード（左側）、フラッシュモード（右側）、ホワイトバランス（下側）を変更することができます。

白表示：選択可　グレー表示：選択不可

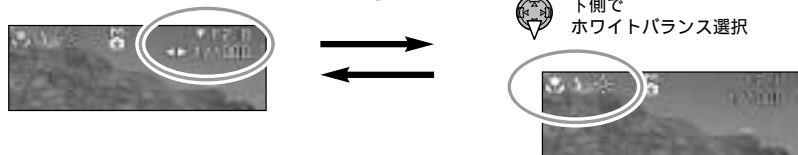
左右で
シャッター速度選択

下側で
絞り値選択

上側で
切り替え

左で
マクロモード選択

右で
フラッシュモード選択

下側で
ホワイトバランス選択

処理時間について

● 1/2秒よりも遅いシャッター速度に設定した場合、露光（撮影）終了後に続けてノイズ軽減処理が行われますので、処理時間が長くなります。

マニュアル露出撮影時に設定が固定される機能

● 撮像感度（ISO）の設定が "AUTO" の場合、「ISO50」に固定されます。変更はできません。

マニュアル露出撮影時に使用不可の機能

● 以下の機能は、マニュアル露出撮影時には使用できません。
露出補正（P.76）、フラッシュモードの自動発光（P.43）

フラッシュ発光量について

● マニュアル露出撮影でフラッシュを使用する場合、状況によっては適正発光量とならないことがあります。その場合、フラッシュ光量モード（P.83）をご使用ください。

オートブラケット

露出またはフォーカスの設定条件を自動的に3通りに変えて撮影します。（3コマ連写）

設定内容　◎は初期設定値です。

◎	1コマ撮影モード	1枚ずつ撮影する場合に設定します。
	連写モード	連続して撮影する場合に設定します。（P.51）
	ブラケット露出	露出の設定条件を自動的に変えて撮影する場合に設定します。 ±0、－0.5Ev、＋0.5Evの順で、3通りの設定で撮影されます。
	ブラケットフォーカス	ピント位置をずらして撮影する場合に設定します。 自動的に3通りの設定で撮影されます。

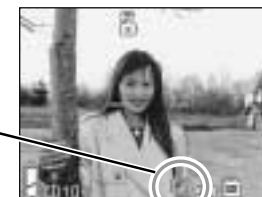
1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニューのアイコンを表示させ、十字キーの左右で「ブラケット設定」のメニューを選択します。

2. 十字キーの上下で、「ブラケット露出」または「ブラケットフォーカス」を選択します。

3. セット／ディスプレイボタンを押して設定を完了させます。

● 液晶モニターに選択したモードが表示されます。

4. シャッターボタンを押し込んで撮影します。自動的に3通りの設定で記録されます。

● 撮影した画像は、再生モード ▶ で確認してください。

● 選択したブラケット設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。
通常の撮影に戻すときは、同じ要領で設定を変更してください。

露出補正

画面全体を明るくしたり暗くしたりすることができます。－2.0～＋2.0の範囲で1/3Evごとに設定できます。

＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
－側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

露出補正＋側

露出補正－側

1.P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニューのアイコンを表示させ、十字キーの左右で「露出補正」のメニューを選択します。
●初期設定では、「±0.0」が表示されます。

2.十字キーの上下で、希望の補正値を選択します。
●上を押すと暗くなります（－側に露出補正）。
下を押すと画面は明るくなります（＋側に露出補正）。

3.セット／ディスプレイボタンを押して設定を完了させます。
●液晶モニターに選択した補正値が表示されます。

●「ムービー／音声→P.62」のモードメニューでも設定可能です。
●選択した露出補正の設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。
露出補正を解除するときは、同じ要領で「±0.0」を選んでください。

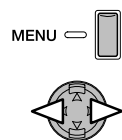
ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽく写ったり黄色っぽく写ったりします。白いものを白く写るように調整するのがホワイトバランスです。AUTO（オート）にすると自動的に調整されますが、AUTOで思うような色が出ないときは、その他の設定で意図的に被写体を照射している光源を選ぶことができます。

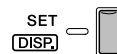
設定内容　◎は初期設定値です。

◎	AWB	オート	ホワイトバランスは自動的に調整されます。
		昼光	昼光（晴れた明るい屋外）での撮影に適しています。
		曇天	曇天（曇った屋外）での撮影に適しています。
		蛍光灯	蛍光灯下での撮影に適しています。
		白熱灯	白熱灯（タングステン光）での撮影に適しています。

● 複数の光源がある場合や、水銀灯など特殊な光源下では、正確なホワイトバランスが得られないことがあります。フラッシュの使用をおすすめします。

MENU

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニューのアイコンを表示させ、十字キーの左右で「ホワイトバランス」のメニューを選択します。

● 初期設定では、「オートホワイトバランス」が表示されます。

2. 十字キーの上下で、希望のモードを選択します。

3. セット／ディスプレイボタンを押して設定を完了させます。

● 液晶モニターに選択したモードが表示されます。オートの場合、液晶モニターに表示は現れません。

●「ムービー／音声→P.62」のモードメニューでも設定可能です。

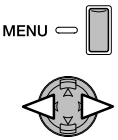
● 選択したホワイトバランスの設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。通常の撮影に戻すときは、同じ要領で「オートホワイトバランス」に設定し直してください。

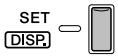
撮像感度（ISO）

撮像感度 （ISO）の切り替えができます。

設定内容　◎は初期設定値です。

◎ AUTO　通常の感度はISO100相当ですが、撮影条件（明るさやフラッシュ発光の有無など）に合わせて自動的に感度が切り替わります。一般撮影に適しています。
●マニュアル露出モード時にはISO 50で固定されます。

50/100/200/400　高い感度は、動きの速い被写体や暗い場所での撮影などに適しています。ただし、感度を高く設定するほど画像は粗くなります。
低い感度は、明るい場所での撮影や遅めのシャッター速度を使用したいときなどに適しています。

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニューのアイコンを表示させ、十字キーの左右で「ISO設定」のメニューを選択します。

2. 十字キーの上下で、希望の感度を選択します。

3. セット／ディスプレイボタンを押して設定を完了させます。
●液晶モニターに選択した撮像感度（ISO）が表示されます。

●撮像感度を変更すると、フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）は以下の通りになります。

撮像感度（フィルム換算値）		AUTO（オート）	ISO 50	ISO 100	ISO 200	ISO 400
フラッシュの調光距離	広角側	0.5〜3.0m	0.5〜1.5m	0.5〜2.1m	0.5〜3.0m	0.5〜4.3m
	望遠側	0.8〜1.7m	0.8〜0.86m	0.8〜1.2m	0.8〜1.7m	0.8〜2.4m

●選択した撮像感度（ISO）設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。
「AUTO」の設定に戻すときは、同じ要領で設定し直してください。

フォーカス固定

フォーカス（ピント）を固定して撮影したいときに使います。

設定内容　◎は初期設定値です。

◎	AF	オートフォーカス	カメラが自動でピント合わせを行います。
	▲	無限	フォーカス（ピント）は「無限位置」で固定されます。
	MF 0.8	0.8m	フォーカス（ピント）は「0.8mの距離」で固定されます。
	MF 1.2	1.2m	フォーカス（ピント）は「1.2mの距離」で固定されます。
	MF 2.5	2.5m	フォーカス（ピント）は「2.5mの距離」で固定されます。

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニューのアイコンを表示させ、十字キーの左右で「フォーカス設定」のメニューを選択します。

2. 十字キーの上下で、希望の距離を選択します。

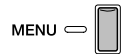
3. セット／ディスプレイボタンを押して設定を完了させます。
- 液晶モニターに選択した設定が表示されます。

- 選択したフォーカス固定の設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。「オートフォーカス」の設定に戻すときは、同じ要領で設定し直してください。

画質設定（カスタム設定）

お好みに合わせて、フラッシュ光量、彩度、コントラスト、シャープネス、色合い（赤・緑・青）、スローシャッターの速度の組み合わせを2通りまで設定することができます。
- 各メニューの初期設定は「オフ」になっていますので、最初にセットアップメニューの中の「カスタム設定」モードの「オフ」を解除して「オン」にしてください。「オン」にすると各メニューの設定画面が表示されるようになり、お好みに合わせた画質に設定することができます。→P.131

設定内容　◎は初期設定値です。

設定 ◎OFF 1・2	設定した画質設定を呼び出したり、設定を変更したりします。 各項目の設定は初期設定値になります。 画質を設定する時、設定を変更する時、設定した画質で撮影する時に指定します。
フラッシュ光量 −1・−0.5・ ◎0・+0.5・+1	フラッシュの発光量を調整します。 −1Ev〜＋1Evまで、0.5Evごとに設定を選べます。 ※詳細は→P.85　露出補正とフラッシュ光量調整の違い
彩度 −2・−1・ ◎0・+1・+2	カラー撮影時の色の鮮やかさを調整します。 −2〜＋2まで、1ごとに設定を選べます。＋側は色鮮やかでくっきりとした画像に、−側は落ち着いた画像になります。
コントラスト −2・−1・ ◎0・+1・+2	撮影する画像のコントラスト（明暗差）を調整することができます。 −2〜＋2まで、1ごとに設定を選べます。＋側はメリハリの効いたくっきりした画像に、−側は白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。
シャープネス −2・−1・ ◎0・+1・+2	撮影する画像の鮮鋭度を調整することができます。 −2〜＋2まで、1ごとに設定を選べます。＋側は、輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像に、−側は輪郭のやわらかな画像になります。
色合い（赤・緑・青） −2・−1・ ◎0・+1・+2	カラー撮影時の、赤・緑・青各色の濃さを調整します。 −2〜＋2まで、1ごとに設定を選べます。 ※詳細は→P.85　色合い
スローシャッターの速度	フラッシュモードに応じてスローシャッター（最長シャッター速度）を変更することができます。
1/8・1/15・1/30・ ◎1/60・1/125	AUTOまたは強制発光 ⚡ にしたときは、左記の速度の中から設定を選べます。
1/1・1/2・1/4・ ◎1/8・1/15	発光禁止 ⊘ にしたときは、左記の速度の中から設定を選べます。 ※詳細は→P.86　スローシャッター（最長シャッター速度）を変更する

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニューのアイコンを表示させ、十字キーの左右で「カスタム設定」のメニューを選択します。

● 初期設定では「カスタム設定オフ」が表示されます。

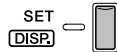
2. 十字キーの上下で、「カスタム設定1」または「カスタム設定2」を選択します。

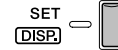
● 異なる2通りの画質設定が可能です。

3. 選択後、十字キーの左右で各項目を選択します。

● 右の画面は「カスタム設定1」で項目「フラッシュ光量 ±0.0」を選択した場合の画面です。

4. 各項目を選択した後、十字キーの上下で希望の設定値を選択します。

●「彩度 ±0」、「コントラスト ±0」、「シャープネス ±0」、「色合い(赤) RGB ±0」、「色合い(緑) RGB ±0」、「色合い(青) RGB ±0」、「スローシャッタ ON 1/60 OFF 1/8」についても、同じ方法で設定できます。

5. 必要な項目について設定したら、セット／ディスプレイボタンを押すか、シャッターボタンを半押しし、設定を完了させます。

● 通常撮影画面に戻ります。

6. 設定した画質で撮影したいときは、P.84の要領で「カスタム設定1」または「カスタム設定2」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

● 液晶モニターに選択したカスタム設定が表示されます。

● 通常の設定（初期設定）で撮影したいときは「カスタム設定オフ」を選択してセット／ディスプレイボタンを押します。

● 選択したカスタム設定は、カメラの電源を切った後、電源を入れ直しても保持されます。

露出補正とフラッシュ光量調整の違い

フラッシュが発光する場合は、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます。露出補正では、シャッター速度・絞り値・撮像感度（オートの場合）が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、それに加えてフラッシュの発光量も同時に変化します。

一方フラッシュ光量の調整は、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えばフラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、フラッシュ光量をややアンダー側（－側）に設定しておき、同時に露出補正をオーバー側（＋側）にかけて全体の明るさを調整する、といった使い方ができます。

● フラッシュの光量には限りがあるため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、オーバー側の効果が出ないことがあります。同様に近接撮影ではアンダー側の効果が出ないことがあります。

色合い

色合いは相対値として設定されます。「0（赤）・0（緑）・0（青）」も「－2（赤）・－2（緑）・－2（青）」も同じ効果になります。たとえば、最も赤を強調したい場合は、赤の濃さを＋2に設定するだけでなく、緑と青を－2に設定します。

次ページへ続く

画質設定（続き）

スローシャッター（最長シャッター速度）を変更する

フラッシュモードをAUTOまたは強制発光（ ）にしたときのスローシャッター速度を変更したいときは､「スローシャッタ 」を選択します。

● 赤目軽減発光（P.126）の設定を「オン」にした場合は、フラッシュモードを赤目軽減自動発光または赤目軽減強制発光にしたときも同様です。

フラッシュモードを発光禁止（ ）にしたときのスローシャッター速度を変更したいときは、「スローシャッタ 」を選択します。

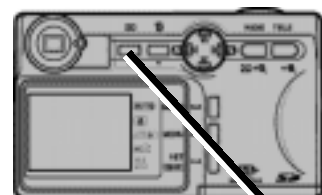
スローシャッター（最長シャッター速度）の表示について

「スローシャッタ 」の速度は、設定画面では広角（W）側の表示のみとなります。望遠（T）側は下表の通り対応していますのでご参照ください。
なお、初期設定では、広角（W）側の場合「1/60」秒が表示されます。
また､「スローシャッタ 」を選択の場合には、焦点距離ごとにシャッター速度は変化しません。

広角（W）側	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125
望遠（T）側	1/13	1/25	1/50	1/100	1/200

● 絞り優先モード、マニュアル露出モードのときは、スローシャッター設定は無効になります。

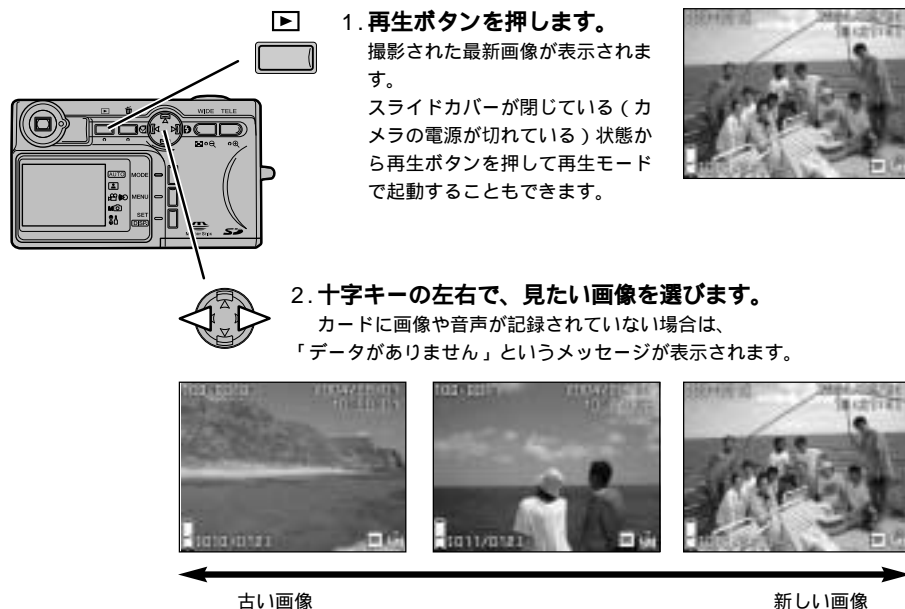
再生する

この章では、再生モードでの各種設定について説明しています。

スライドカバーが開いている時に再生ボタンを押すと、再生モードになります。

1コマ再生

1.再生ボタンを押します。
- 撮影された最新画像が表示されます。
- スライドカバーが閉じている（カメラの電源が切れている）状態から再生ボタンを押して再生モードで起動することもできます。

2.十字キーの左右で、見たい画像を選びます。
- カードに画像や音声が記録されていない場合は、「データがありません」というメッセージが表示されます。

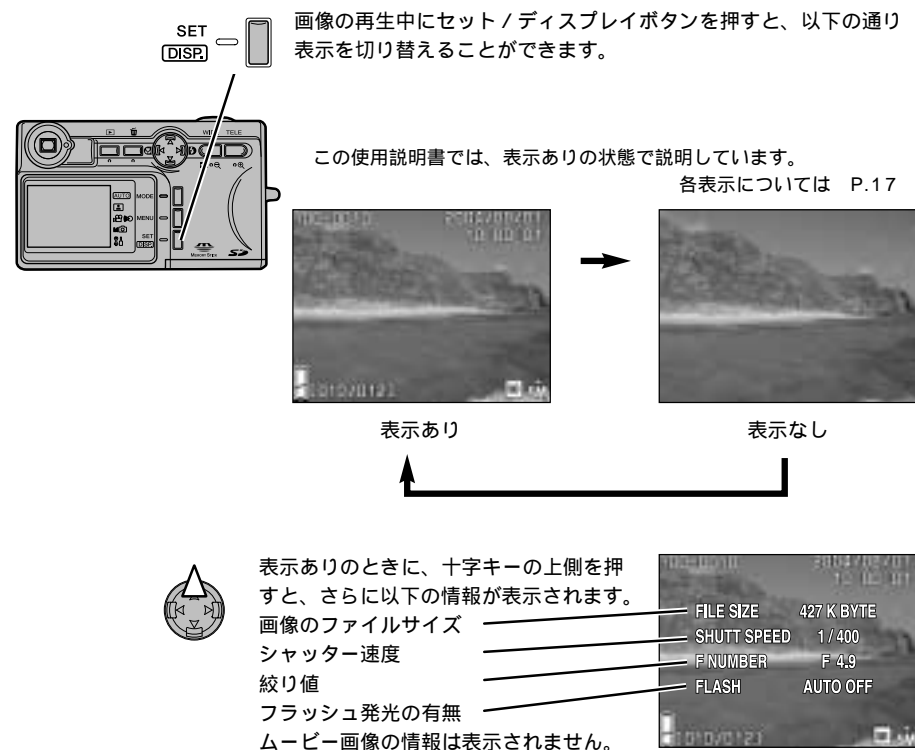
古い画像　　新しい画像

- メディアを1種類しか使用していない場合は、最新画像を表示中に十字キーの右を押すと、最も古い画像に戻ります。逆も同様です。
- 2種類のメディアを使用している場合、最新画像を表示中に十字キーの右を押すと、もう片方のメディアの最も古い画像が表示されます。逆も同様です。
- ムービー画像の場合はムービー開始時の画像が、ボイスレコードの場合は青い画面が表示されます。→P.92
- セットアップメニューで、「アフタービュー（P.123)」をあらかじめ設定しておくと、撮影した画像をすぐに液晶モニターで再生確認することができます。

画像表示の切り替え（再生時）

画像の再生中にセット／ディスプレイボタンを押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。

- この使用説明書では、表示ありの状態で説明しています。

※各表示については→P.17

表示ありのときに、十字キーの上側を押すと、さらに以下の情報が表示されます。
画像のファイルサイズ
シャッター速度
絞り値
フラッシュ発光の有無
ムービー画像の情報は表示されません。

表示を元に戻すには、十字キーの上側を再度押します。

インデックス再生

9コマ分を一度に液晶モニターに表示することができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。

WIDE

1コマ再生時に、ズームボタンの左（WIDE）側を押します。

● インデックス画面に切り替わります。

WIDE　TELE

● インデックス画面に入ったときの画像が赤枠で囲まれます。

● 画面の最初のコマにメディアの種類が表示されます。

● 画像の設定が表示されます。

：ボイスレコード

：アフレコ

：ムービー

● 十字キーで画像を選択することができます。選択した画像に赤枠が移動します。

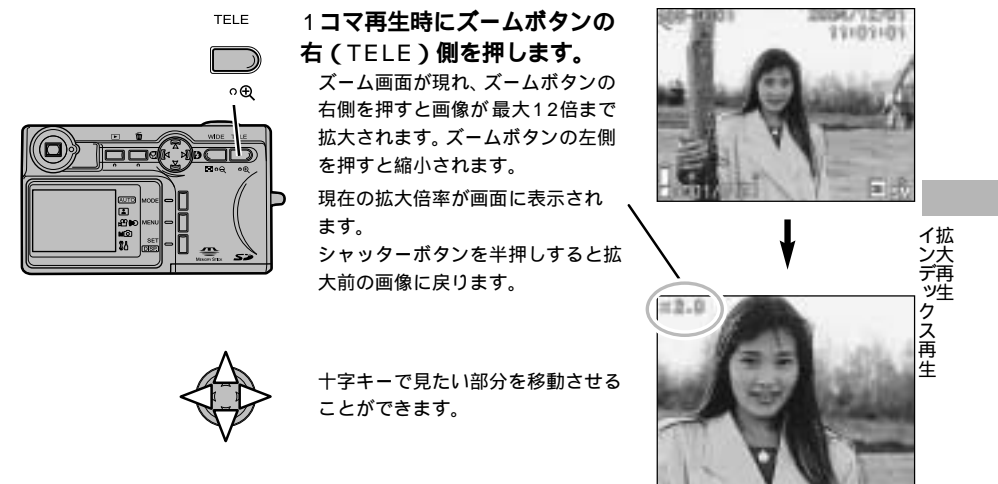
● 2種類のメディアを使用している場合、切り替わったメディアの最初のコマにメディアの種類が表示されます。

画像番号

● 右側（TELE）のズームボタンを押すかシャッターボタンを半押しすると1コマ再生の画像に戻ります。

● 先頭コマで十字キーの左側を、最終コマで十字キーの右側を押すと次の9枚の画像に入れ替わります。

● ムービー画像の場合はムービー開始時の画像が、ボイスレコードの場合は青い画面が表示されます。

拡大再生

再生画像を、最大12倍まで拡大することができます。

● ムービー画像の拡大再生はできません。

TELE

1コマ再生時にズームボタンの右（TELE）側を押します。

● ズーム画面が現れ、ズームボタンの右側を押すと画像が最大12倍まで拡大されます。ズームボタンの左側を押すと縮小されます。

● 現在の拡大倍率が画面に表示されます。

● シャッターボタンを半押しすると拡大前の画像に戻ります。

● 十字キーで見たい部分を移動させることができます。

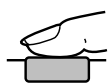
● 記録画素数によって拡大できる倍率の上限は異なります。

記録画素数	拡大倍率
2592x1944	12.0倍
2048x1536	10.7倍
1600x1200	8.3倍
640x480	3.3倍

ムービー・ボイスレコード・アフレコの再生

撮影したムービーやボイスレコード、アフレコを再生します。

ムービーの再生

1.再生ボタンを押した後、十字キーの左右で再生したいムービー画像を表示させます。

2.シャッターボタンを押して、ムービー再生を開始します。

録画時間

経過秒数

最後まで再生すると、自動的にムービー開始前の状態に戻ります。

●途中で終えるときは、シャッターボタンを再度押してください。

ボイスレコード・アフレコの再生

再生ボタンを押した後、十字キーの左右で再生させたいコマを選んでから、シャッターボタンを押して、再生を開始します。

●再生前は、画面右上に録音時間が表示されます。再生が始まると経過秒数画の表示に変わります。

ボイスレコード再生前画面

録音時間

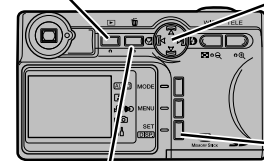
アフレコ再生前画面

最後まで再生すると、自動的に開始前の状態に戻ります。

●途中で終えるときは、シャッターボタンを再度押してください。

消去ボタンによる画像の消去

画像を消去します。1コマだけ消去したり、コマを選択して複数コマを消去したり、あるいはメディア内のコマを全て一括で消去できます。

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1.再生ボタンを押した後、十字キーの左右で消去したい画像を選びます。

●インデックス再生画面（P.90）で消去する画像を選ぶこともできます。

セット／ディスプレイボタン

2.消去ボタンを押します。

●右の画面が表示されます。

SET
DISP.

3.十字キーの上下で希望の設定を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

●表示中の画像1コマのみを消去する場合は「1コマ」を、表示されたメディアの画像をすべて消去したい場合は「全コマ」を選択します。

●「キャンセル」を選択してセット／ディスプレイボタンを押すと、消去をやめ、通常の撮影画面に戻ります。

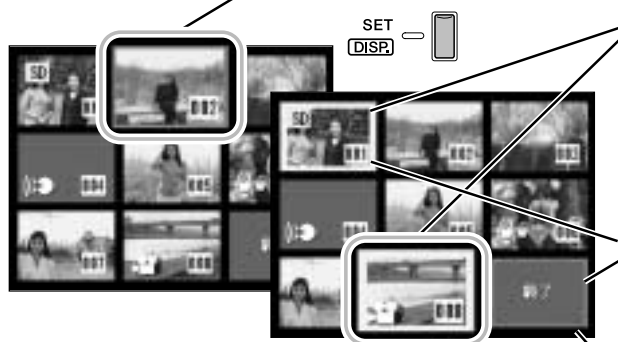
「選択コマ」を選んだ場合→次ページの5.へ

4.消去が開始され、「消去中です」画面が表示されます。消去が完了すると再生画像に戻ります。

●撮影した画像がない場合は、「データがありません」と表示されます。

次ページへ続く

5.「選択コマ」を選択してセット／ディスプレイボタンを押した場合、8コマの画像が表示されます。十字キーの上下左右で、消去する画像に赤枠を合わせて、セット／ディスプレイボタンを押します。

SET DISP.

- 選択した画像は黄枠で囲まれます。他の画像も選択する場合は、再度選択操作を行います。一度選択した画像を取り消す場合は、十字キーでその画像まで赤枠を移動し、セット／ディスプレイボタンを押します。
- 先頭コマで十字キーの左側を、最終コマ（終了）で十字キーの右側を押すと次の8枚の画像に入れ替わります。
- 選択画面で画像の消去をキャンセルする場合は、メニューボタンを押します。

6.選択を終了させる場合は、十字キーの上下左右で「終了」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

7.確認画面が表示されます。実行する場合は、十字キーの左右で「はい」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します

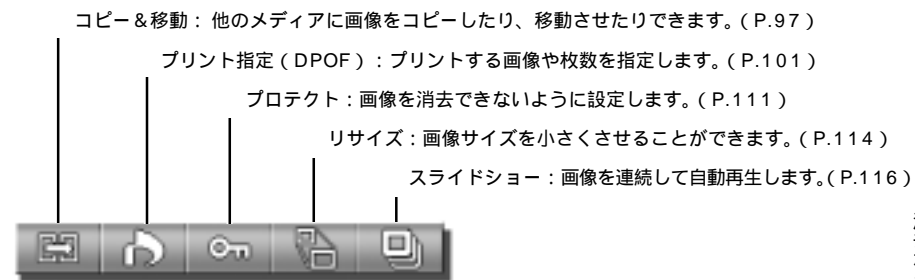
- 「いいえ」を選択しセット／ディスプレイボタンを押すと、消去を実行せずに再生画像に戻ります。

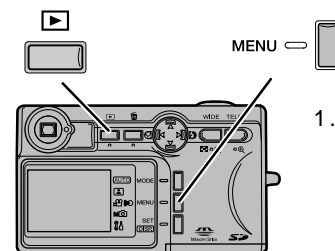
8.消去が開始され、「消去中です」画面が表示されます。消去が完了すると再生画像に戻ります。

再生メニューの選択

再生メニューを使うことにより、撮影した画像のコピーやプロテクト、プリント設定などの設定ができます。

設定できるメニュー

- コピー＆移動：他のメディアに画像をコピーしたり、移動させたりできます。（P.97）
- プリント指定（DPOF）：プリントする画像や枚数を指定します。（P.101）
- プロテクト：画像を消去できないように設定します。（P.111）
- リサイズ：画像サイズを小さくさせることができます。（P.114）
- スライドショー：画像を連続して自動再生します。（P.116）

ここではメニュー項目の選択方法までを説明しています。
各メニューの詳細設定については、それぞれのページをご覧ください。

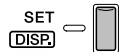
MENU

1.再生ボタンを押した後、メニューボタンを押すと、右の再生メニュー画面が表示されます。

- スライドカバーが閉じている（カメラの電源が切れている）状態から再生ボタンを押して再生モードで起動することもできます。

次ページへ続く

2.十字キーの左右で設定したいメニューを選択します。

3.十字キーの上下でメニューの中のモードを選択し、セット／ディスプレイボタンで各モードの設定を行います。

●選択したモードは反転表示されます。

4.全ての設定が完了したら、十字キーの下側で「OK」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

●設定が完了するとメニュー画面に戻ります。メニュー画面のときにメニューボタンを押すと再生画像に戻ります。

●各メニューの詳細設定は、以降のページをご覧ください。

画像のコピー&移動

2種類のメディアを使用している場合、片方のカードスロットに入っているカードから、もう片方のカードに画像や音声をコピーしたり、移動させたりすることができます。

●メモリースティックとSDメモリーカード（またはマルチメディアカード）がそれぞれのカードスロットに入っている必要があります。

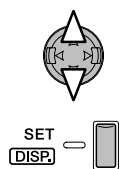
※カードの入れ方については→P.24

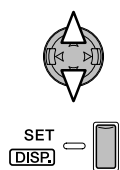
設定内容

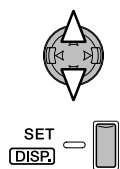
メディア	コピー元／移動元とコピー先／移動先を指定します。
SD→MS	SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）からメモリースティックへコピー／移動します。
MS→SD	メモリースティックからSDメモリーカード（またはマルチメディアカード）へコピー／移動します。
単位	コピー元／移動元のメディアからコピー／移動するコマを指定します。
選択コマ	指定した画像だけをコピー／移動します。
全コマ選択	選択メディア内の画像すべてをコピー／移動します。

1.P.95の要領で、再生メニューの中から「コピー＆移動」を選択します。

次ページへ続く

画像のコピー&移動（続き）

2.十字キーの上下でメディアモードを選択し、セット／ディスプレイボタンでコピーまたは移動先のメディアを選択します。

- セット／ディスプレイボタンを押すごとに、「SD→MS]と「MS→SD」が切り替わります。
- 選択したメディアに画像やカードが入っていない場合は選択できません。

3.十字キーの上下で単位モードを選択し、セット／ディスプレイボタンで「選択コマ」または「全コマ選択」を選択します。

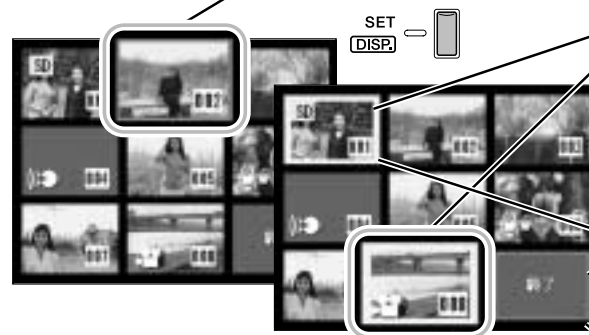
- セット／ディスプレイボタンを押すごとに、「選択コマ]と「全コマ選択」が切り替わります。

4.十字キーの上下でコピー／移動モードを選択し、セット／ディスプレイボタンで「コピー」または「移動」を選択します。

- セット／ディスプレイボタンを押すごとに、「コピー]と「移動」が切り替わります。

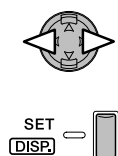
5.全ての選択が完了したら、十字キーの下側で「OK」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

- メニューボタンを押すか、「OK」の１つ上のアイコン位置でセット／ディスプレイボタンを押すと設定を無効にして1.の画面に戻ります。

「単位」で「選択コマ」を選んだ場合→6.へ
「単位」で「全コマ選択」を選んだ場合→次ページの8.へ

6.8コマの画像が表示されます。
十字キーの上下左右で、コピーまたは移動する画像に赤枠を合わせて、セット／ディスプレイボタンを押します。

- 選択した画像は黄枠で囲まれます。他の画像も選択する場合は、再度選択操作を行います。一度選択した画像の設定を取り消す場合は、十字キーでその画像まで赤枠を移動し、セット／ディスプレイボタンを押します。
- 先頭コマで十字キーの左側を、最終コマ（終了）で十字キーの右側を押すと8枚とも次の画像に入れ替わります。
- 選択画面で画像のコピーまたは移動をキャンセルする場合は、シャッターボタンを半押しします。

7.選択を終了させる場合は、十字キーの上下左右で「終了」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

次ページへ続く

8.確認画面が表示されます。
実行する場合は、十字キーの左右で「はい」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します

●「いいえ」を選択しセット／ディスプレイボタンを押すと、設定を無効にして1.の画面に戻ります。

9.コピーまたは移動が開始され、「コピー中です」または「移動中です」画面が表示されます。
コピーまたは移動が完了すると1.の画面に戻ります。

● 画像はコピー先／移動先のメディアの一番最後にコピー／移動されます。
● プロテクトされている画像をコピーした場合、コピーされた画像にはプロテクトがかかっていません。
● プロテクトされている画像を移動した場合、移動元のメディアにも元の画像が残るため、コピーと同じ操作になります。

※プロテクトの解除方法は→P.113

● 指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、コピー先／移動先のメディアにコピー／移動できない場合は「メモリーがいっぱいです」のメッセージが表示されます。このような場合でも一部はコピー／移動される場合もあります。

画像のプリント

プリントする方法について

撮影した画像は様々な方法でプリントすることが可能です。

1. ご自分のプリンタで印刷する。
画像をパソコンに取り込んでそこから印刷できます（パソコンとの接続に関してはP.142～）。プリンタによっては、パソコンを介さずに直接カードから印刷したり（P.102）、カメラとプリンタをUSBケーブルで接続するだけで印刷できるものもあります（PictBridge→ P.107）。

2. ご購入店やカメラ店などにプリントを依頼する
カードをお店にお持ちになると、普通のフィルムと同様にプリントできます。
DPOF対応のプリント店では、プリント（DPOF）指定を利用できます。
お店によっては、フォルダ番号とファイル番号でどの画像を何枚プリントするかを指定する場合もあります。

フォルダ番号ーファイル番号

3. ネットプリントを利用する
インターネットを介してプリントの依頼をすることができます。Windowsパソコンをお持ちのかたは、付属のCD-ROMからアクセスすることができます（→ P.162）。

ここでは、より便利にプリントする方法の1つとしてプリント（DPOF）指定と、カメラとプリンタを直接USBケーブルでつないでプリントする方法（P.107）を紹介します。

プリント（DPOF）指定

プリント（DPOF）指定とは、撮影した画像をご自分のプリンタでプリントする場合や、プリント店にプリントを依頼する際に、あらかじめどの画像を何枚プリントするかをカメラで指定しておくことです。

- ●プリンタやプリント店がDPOF*に対応している必要があります。
  *DPOF＝ ディーポフ、Digital Print Order Formatの略。撮影した画像の中から、プリントしたいコマや枚数等の指定情報を記録メディアに記録するフォーマットのこと。
- ●1コマにつき最大999枚まで指定ができます。
- ●デート印字指定も可能です。
- ●プリント（DPOF）指定の解除もできます。
- ●ムービーのプリント（DPOF）指定はできません。
- ●他のデジタルカメラでプリント（DPOF）設定したカードをこのカメラに入れると、他のカメラでの設定はキャンセルされます。

設定内容

メディア	プリント（DPOF）指定（または解除）の対象となるカードを選択します。カードが入っていない場合は選択できません。
SD	SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）内の画像が対象になります。
MS	メモリースティック内の画像が対象になります。
単位	プリントするコマを指定（または解除）します。以下の2通りの方法があります。
選択コマ	指定した画像だけをプリント（DPOF）指定します。選択コマだけ解除する場合にも使用します。
全コマ選択	選択メディア内の画像すべてをプリント（DPOF）指定します。
全コマ解除	選択メディア内のプリント（DPOF）指定された画像すべてを指定解除します。
デート	プリントする際に、プリンタで撮影した日時を印字する指示をカメラで行うことができます。日時の入る場所（画面内／画面外、サイズ等）はお使いのプリンタによって異なります。また、プリンタによっては、この機能に対応していないものもあります。
デートオン	選択メディア内の画像すべてを印字指定します。
デートオフ	選択メディア内のプリント指定された画像すべてについて印字指定解除します。

1. P.95の要領で、再生メニューの中から「プリント指定（DPOF）」を選択します。

2. 十字キーの上下でメディアモードを選択し、セット／ディスプレイボタンでプリントしたい画像が入っているメディアを選択します。

- ●セット／ディスプレイボタンを押すごとに、「メディア選択SD]と「メディア選択MS」が切り替わります。
- ●選択したメディアに画像やカードが入っていない場合は選択できません。

3. 十字キーの上下で単位モードを選択し、セット／ディスプレイボタンで、1コマまたは複数コマをプリントする場合は「選択コマ」を、全コマをプリントする場合は「全コマ選択」を選択します。

- ●セット／ディスプレイボタンを押すごとに、選択肢が切り替わります。

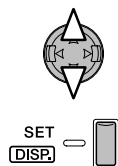
4. 十字キーの上下でデートモードを選択し、セット／ディスプレイボタンで「デートオン」または「デートオフ」を選択します。

- ●「デートオン」を選択すると、撮影日時がプリントされます。
- ●セット／ディスプレイボタンを押すごとに、「デートオン」と「デートオフ」が切り替わります。

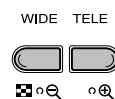
次ページへ続く

5.全ての選択が完了したら、十字キーの下側で「OK」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

- メニューボタンを押すか、「OK」の１つ上のアイコン位置でセット／ディスプレイボタンを押すと設定を無効にして1.の画面に戻ります。

「単位」で「選択コマ」を選んだ場合→6.へ
「単位」で「全コマ選択」を選んだ場合→次ページの9.へ

6.「選択コマ設定」画面が表示されます。十字キーの上下で「前回設定ファイル読込」または「全コマ初期値＜0＞」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

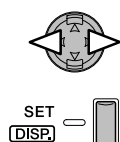
- 「前回設定ファイル読込」を選択すると、前回プリント指定したファイルを再度読み込むことができます。前回設定した画像がファイル内に無い場合はグレー表示となり選択できません。その場合は「全コマ初期値＜0＞」を選択してください。
- 「全コマ初期値＜0＞」を選択し、十字キーの左右を押すと、あらかじめ全コマの初期枚数を指定することができます。
- DPOF設定をしないときは「キャンセル」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

7.8コマの画像が表示されます。十字キーの上下左右を押すと赤枠が移動します。画像を赤枠で囲むとプリント枚数の変更やプリント指定が行えます。

- プリント指定したい画像を赤枠で囲んでズームボタン（TELE/WIDE）を押すとプリント枚数の増減が行えます。
- プリント指定された画像は黄枠で囲まれ、画像左上にはプリント枚数が表示されます。
- 一度設定したプリント枚数をリセットする場合は、十字キーでその画像まで赤枠を移動し、セット／ディスプレイボタンを押します。

- 先頭コマで十字キーの左側を、最終コマ（終了）で十字キーの右側を押すと8枚とも次の画像に入れ替わります。
- 選択画面で画像のプリント指定をキャンセルする場合は、シャッターボタンを半押しします。

8.選択を終了させる場合は、十字キーの上下左右で「終了」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

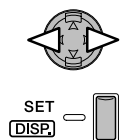
9.「全コマ選択」の場合：十字キーの左右またはズームボタン（TELE/WIDE）を押してプリント枚数を指定した後、セット／ディスプレイボタンを押します。

次ページへ続く

10.確認画面が表示されます。
「全コマ選択」「選択コマ」を選択の場合：
十字キーの左右ボタンで「はい」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

●「いいえ」を選択してセット／ディスプレイボタンを押すと設定を無効にして1.の画面に戻ります。

11.「プリント指定中です」の画面が表示されます。
設定が完了すると1.の画面に戻ります。

プリント指定の解除（全コマ解除）

1. P.103の1.～3.の要領で進み、単位モードで「全コマ解除」を選択します。
選択後、十字キーの下側で「OK」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

2.「全コマ解除」を選択した場合の確認画面が表示されます。
十字キーの左右で「はい」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

PictBridge対応プリンタでの印刷

PictBridge*（ピクトブリッジ）対応のプリンタをお使いの場合、カメラとプリンタを直接USBケーブルで接続してプリントを行うことができます。パソコンを使わないので、手軽にプリントが楽しめます。

* PictBridge=デジタルカメラで撮影した画像を、パソコンを使わずに印刷するための規格。これに対応しているカメラとプリンタであれば、メーカーを問わず、カメラから直接印刷することが可能。

- 印刷指定できる画像の数は、最高50コマです。
- ムービーの印刷はできません。（プリンタと接続しても表示されません。）
- プリントの途中でカメラの電池がなくなると印刷は中断されます。電池をフル充電するか、別売りのACアダプタ ーAC-9の使用をおすすめします。
- USB接続中は、オートパワーオフ機能は働きません。

カメラとプリンタの接続

接続の前に、セットアップメニューの「USB接続」の設定を「PictBridge」にしてください（→P.138）。

2つのメディアを同時にプリンタに認識させることはできません。カメラに2種類のメディアが挿入されている場合、オート撮影モードメニューの「優先メモリー」の設定が、プリントしたい画像が記録されている方のメディアになっている必要があります（→P.56）。

- 認識させたいメディアの容量がいっぱいの時など、優先メモリーがもう片方のメディアに自動的に切り替わる場合があります。希望のメディアを設定するには、使用しない方のカードを取り外してください。

1.プリンタの電源を入れます。

2.プリンタ側で用紙設定などを行う場合は、プリンタの設定を行います。

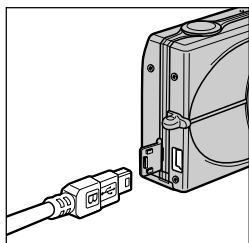
- 詳しい設定方法については、プリンタの取扱説明書をご覧ください。

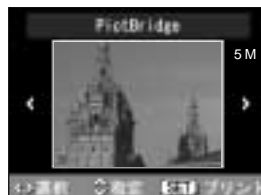
3.カメラの電源を切り、カードを入れます。

- 優先メモリーが正しく設定されていることを確認してください。

4.付属のUSBケーブルの大きいほうのコネクタを、プリンタのUSBポートに差し込みます。

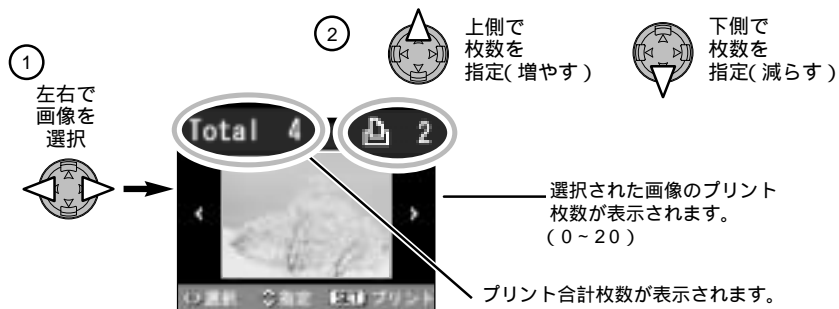
- プリンタ内蔵のポートに直接つないでください。USBハブを経由して接続すると正常に動作しない場合があります。

次ページへ続く

5.付属のUSBケーブルの小さいほうのコネクタを、カメラのUSB端子に差し込みます。

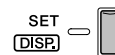
- 「USB接続中」のメッセージが現れた後、PictBridgeの画面になります。

プリント方法

カメラとプリンタを接続すると、以下の画面が現れます。この画面でそのままプリント設定を行うことができます。

1.十字キーでプリントする画像と各コマの枚数を指定します。

- その画像を1枚だけプリントする場合は、プリントする画像を選んだ後、枚数を指定せずに、直接、次ページの3.の操作で、セット/ディスプレイボタンを押してください。

- 51コマ目の画像を選択しようとすると、「画像が多すぎます。50コマまでに指定し直してください。」のメッセージが現れます。指定する画像の数を50コマ以下に減らしてください。

2.必要なだけ、1の操作を行います。

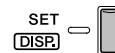
SET DISP.

3.セット／ディスプレイボタンを押します。

- 専用用紙があるプリンタなど、選択できる用紙サイズが1種類しかない場合は、次の画面は表示されず、すぐにプリントが始まります。

4.十字キーの上下で用紙サイズを選択します。

- 選択できる用紙サイズはプリンタによって異なる場合があります。

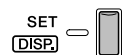
主な用紙サイズ	大きさ
プリンタ設定	プリンタの設定に従います
L	89 x 127mm
はがき	100 x 148mm
2L	127 x 178mm
A4	210 x 297mm

SET DISP.

5.セット／ディスプレイボタンを押します。

- プリントが始まります。

- プリント中は上の画面が表示されます。

次ページへ続く

SET DISP.

6.右の画面が現れたら、セット／ディスプレイボタンを押してプリントを終了させます。

● カメラを取り外す場合は、プリンタの電源を切ってUSBケーブルを外してください。しばらくすると自動的にカメラの電源が切れます。

● 右のメッセージが現れた場合は、プリンタ側の問題（用紙切れなど）によりプリントできません。セット/ディスプレイボタンを押していったんプリントを中止してください。

● プリント中や上記エラーメッセージ表示中にセット/ディスプレイボタンを押すと、プリントは途中で中止され、「プリントを中止しました」というメッセージが現れます。プリントを中止する場合はUSBケーブルを外してください。再度プリントする場合は、再度P.107の手順にしたがってプリントを行ってください。

プロテクト（誤消去防止）

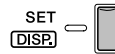
撮影した画像や音声をロックし、間違って消去しないようにすることができます。プロテクトを取り消すこともできます。

● カードをフォーマット（P.120）すると、プロテクトされた画像でも消去されてしまいます。

設定内容

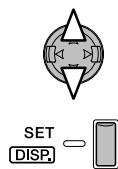
メディア	プロテクト（またはプロテクト解除）の対象となるカードを選択します。カードが入っていない場合は選択できません。
SD	SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）内の画像が対象になります。
MS	メモリースティック内の画像が対象になります。
単位	対象メディアから、プロテクトするコマの指定方法を選択します。
選択コマ	選択した画像だけをプロテクトします。選択コマだけ解除する場合にも使用します。
全コマ選択	対象メディア内の画像すべてをプロテクトします。
全コマ解除	対象メディア内のプロテクト画像すべてをプロテクト解除します。

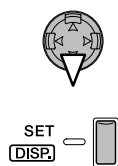
1.P.95の要領で、再生メニューの中から「プロテクト」を選択します。

SET DISP.

2.十字キーの上下でメディアモードを選択し、セット／ディスプレイボタンでプロテクトしたい画像が入っているメディアを選択します。

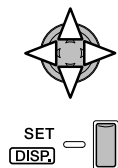
● セット／ディスプレイボタンを押すごとに、「メディア選択SD]と「メディア選択MS」が切り替わります。

● 選択したメディアに画像やカードが入っていない場合は選択できません。

次ページへ続く

3.十字キーの上下で単位モードを選択し、セット／ディスプレイボタンで、1コマまたは複数コマをプロテクトする場合は「選択コマ」を、全コマをプロテクトする場合は「全コマ選択」を選択します。

●セット／ディスプレイボタンを押すごとに、選択肢が切り替わります。

4.全ての選択が完了したら、十字キーの下側で「OK」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

●メニューボタンを押すか、「OK」の1つ上のアイコン位置でセット／ディスプレイボタンを押すと設定を無効にして1.の画面に戻ります。

「単位」で「選択コマ」を選んだ場合→5.へ
「単位」で「全コマ選択」を選んだ場合→次ページの7.へ

5.8コマの画像が表示されます。十字キーの上下左右を押すと赤枠が移動しますので、プロテクトする画像を赤枠で囲んで選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

●先頭コマで十字キーの左側を、最終コマ（終了）で十字キーの右側を押すと次の8枚の画像に入れ替わります。

6.選択した画像は黄枠で囲まれます。他の画像も選択する場合は再度選択操作を行います（5.の操作に戻る）。

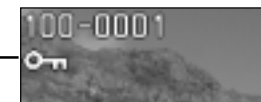
選択を終了させる場合は、十字キーの上下左右で「終了」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

7.確認画面が表示されます。実行する場合は、十字キーの左右で「はい」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します

●「いいえ」を選択しセット／ディスプレイボタンを押すと、設定を無効にして1.の画面に戻ります。

8.「実行中です」画面が表示されます。設定が完了すると1.の画面に戻ります。

●再生時、プロテクトのかかった画像には、液晶モニターに 🔑 が表示されます。

100-0001

プロテクトの解除（全コマ解除）

P.112の3.で「全コマ解除」を選択します。「OK」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押すと「解除しますか？」の確認画面が表示されます。十字キーの左右で「はい」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

リサイズ

撮影した画像の画像サイズを小さくすることができます。Eメールに画像を添付するのに便利です。元の画像はそのまま残ります。

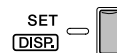
● ムービー画像や、すでにリサイズした画像をリサイズすることはできません。

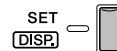
設定内容

サイズ	リサイズした後の画像サイズを選択します。
VGA	640×480にリサイズします。
QVGA	320×240にリサイズします。

1.再生画像でリサイズさせたい画像を選択した後、P.95の要領で、再生メニューの中から「リサイズ」を選択します。

2.十字キーの上側でサイズモードを選択し、セット／ディスプレイボタンで画像サイズを選択します。

● セット／ディスプレイボタンを押すごとに、「VGA」と「QVGA」が切り替わります。

3.選択が完了したら、十字キーの下側で「OK」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

● メニューボタンを押すか、「OK」の1つ上のアイコン位置でセット／ディスプレイボタンを押すと設定を無効にして1.の画面に戻ります。

4.十字キーの左右で「はい」を選択しセット／ディスプレイボタンを押すと、リサイズされた画像が新しく記録されます。

● リサイズした画像を保存するだけの容量がカードにない場合は「メモリーがいっぱいです」のメッセージが表示されます。

● リサイズを実行しない場合は、「いいえ」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

● リサイズされた画像は、メディア内の最後尾に記録されます。
● プロテクトされた画像をリサイズした場合、リサイズされた画像にはプロテクトがかかっていません。
● アフレコ音声付きの画像をリサイズしても音声は附随しません。

スライドショー（画像の自動再生）

記録されている画像を、自動的に順番に表示させることができます。すべての画像が最初から順に2秒ずつ表示されます。

● スライドショー中、動画は最初の画像のみ再生されます。

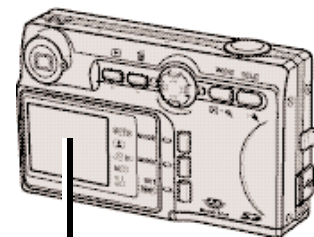
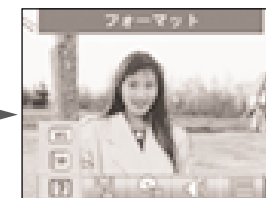
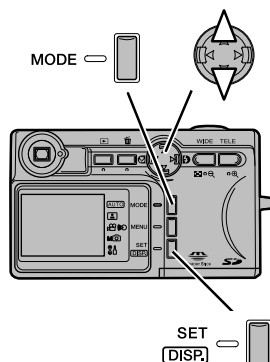
1. P.95の要領で、再生メニューの中から「スライドショー」を選択します。

2. 十字キーの下側で「OK」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。

● 1コマ目から約2秒間隔で順次画像が再生されます。

● 2種類のメディアを使用している場合、スライドショーは最新画像が入っていない方のメディアの最も古い画像から開始されます。
● 画像数が多い場合は、オートパワーオフの設定を「オフ」にしてスライドショーを実行してください。
● スライドショー中に十字キーの左右を押すと、次の画像にコマ送りされます。
● スライドショー中に十字キーの下側を押すと、一時停止します。もう一度下側を押すと、再開します。
● スライドショーを途中で終えるときは、セット／ディスプレイボタンを押します。押した時点での画像が１コマ再生されます。
● すべての画像を再生し終えると、最終コマでスライドショー再生が止まります。

セットアップ

セットアップメニューの各項目を変更することにより、自分に合った使いやすい設定でカメラを使用することができます。

セットアップメニュー画面

セットアップメニューの選択

撮影時、再生時の状態のどちらからでもセットアップメニューを表示させることができます。ここではメニュー項目の選択方法までを説明しています。選択できるメニュー項目は下記の通りです。各メニューの詳細設定については、それぞれのページをご覧ください。

設定できるメニュー

● フォーマット	カードを初期状態に戻します。（P.120）
● モニター	液晶モニターに関する設定が可能です。（P.121）
● 撮影設定	撮影設定に関する設定が可能です。（P.124）
● サウンド	各種サウンドのオン／オフ設定が可能です。（P.132）
● 基本設定	日時設定や初期設定などが可能です。（P.134）

撮影時の設定

MODE

SET DISP.

1.撮影画像の状態でモードボタンを押し、十字キーの上下で、セットアップ を選択します。

2.セット／ディスプレイボタンを押し、設定可能なメニューを表示させます。

● 次ページの3.に進みます。

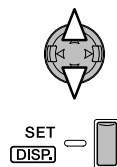
再生時の設定

MODE

再生画像の状態でモードボタンを押し、セットアップメニューを表示させます。

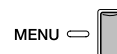
● 3.に進みます。

3.十字キーの左右で設定したいメニューを選択します。

SET DISP.

4.十字キーの上下でメニューの中のモードを選択し、セット／ディスプレイボタンで各モードの設定を行います。

● 選択したモードは反転表示されます。

● セット／ディスプレイボタンを押すごとに、選択肢が切り替わります。

MENU

5.設定が完了したら、メニューボタンを押します。

● 設定が完了し、撮影モード選択画面に戻ります。再生時にセットアップメニューに入ったときは、メニューボタンを押すと再生画像に戻ります。

● シャッターボタンの半押しで、通常の撮影または再生画面に戻ることもできます。

カードのフォーマット（初期化）

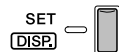
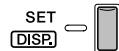
カード内の画像やフォルダをすべて消去するときには、カードのフォーマットが便利です。

フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

- フォーマット中は、絶対カードを抜かないで（電池室/カードスロットふたを開けないで）ください。
- カードのフォーマットはこのページの要領でカメラ側で行なってください。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カメラでカードが認識できないことがあります。

設定内容

メディア　フォーマットの対象となるカードを選択します。
SD　SDメモリー（またはマルチメディア）カード内の画像が対象になります。
MS　メモリースティック内の画像が対象になります。

1.フォーマットするカードをカメラに入れます。

**2.P.118の要領で、セットアップメニューの中から「フォーマット」を選択します。
十字キーの上下で、フォーマットするメディアの種類を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。**

**3.確認画面が表示されます。
実行する場合は、十字キーの左右で「はい」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押します。**

SET DISP.

- 実行しない場合は、「いいえ」を選択しセット／ディスプレイボタンを押します。

**4.フォーマットが開始され、「カードフォーマット中です」画面が表示されます。
フォーマットが完了するとセットアップメニュー画面に戻ります。**

液晶モニターの設定

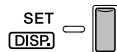
液晶モニターに関する各種設定が可能です。

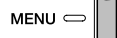
設定内容　◎は初期設定値です。

	項目	説明
	アフタービュー	撮影直後に、撮影した画像を液晶モニターに表示させるように設定できます。
	オン	撮影直後の約3秒間、撮影した画像を液晶モニターに表示させます。
	◎オフ	撮影後即、通常の撮影画面に戻ります。 ※詳細は→P.123　アフタービュー機能を使う
	情報表示	撮影画像や再生画像の情報を、液晶モニターに表示する／しないの切り替えができます。
	◎オン	情報を表示させます。
	オフ	情報を表示させません。電源を入れ直した後も非表示のまま保持されますので、常時非表示で使用したい場合に便利です。 ※詳細は→P.16　液晶モニター表示内容について
	液晶	液晶モニターの点灯方法を変更します。
	◎オン	電源を入れると液晶モニターが常に点灯します。
	オフ	電源を入れても液晶モニターは点灯しません。電源を入れてからセット／ディスプレイボタンを押すと点灯します。
	起動LED	起動LEDの点灯方法を変更します。
	◎オン	カメラの起動時に起動LED（赤ランプ）が点灯します。
	オフ	点灯しません。
	モニター色調整	液晶モニターの明るさと色合いを調整できます。 ※詳細は→P.123　液晶モニターの明るさと色合いを調整する

液晶モニターの設定（続き）

1. P.118の要領で、セットアップメニューの中から「モニター」を選択します。

2. 十字キーの上下で、設定するモードを選択します。

セット／ディスプレイボタンで各モードのオン／オフ設定を切り替えます。

- 「モニター色調整」の場合は、モニター調整画面が表示されます。

3. 設定が完了したら、メニューボタンを押します。

- 設定が完了し、設定前の撮影モード画面に戻ります。再生時にセットアップメニューに入ったときは、メニューボタンを押すと再生画像に戻ります。
- シャッターボタンの半押しで、通常の撮影または再生画面に戻ることもできます。

アフタービュー機能を使う

あらかじめ「アフタービュー」を「オン」に設定しておくと、撮影した画像をすぐに液晶モニターで再生確認することができます。

- 液晶モニターを使って撮影した場合：　撮影が終わると、撮影した画像が液晶モニターに再生されます。約3秒後にスルー画像に戻ります。
- ファインダーを使って撮影した場合：　画像再生後、自動的に液晶モニターは消灯します。

連写モードで撮影する場合は、設定を「オフ」にしてください。

液晶モニターの明るさと色合いを調整する

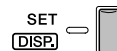
「モニター色調整」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押すとモニター調整画面が表示されます。

＜モニター調整画面＞

1. 十字キーの上下で、選択モード内のカーソルを動かし、調整するモード（明るさまたは色合い）を選択します。

＜選択できるモード＞

2. 十字キーの左右を押すと画面下の調整バーのカーソルが動きますので、お好みの明るさまたは色合いに調整してください。

- 十字キーの右側を押すとカーソルが＋側に動き、画面が明るく（濃く）なります。
  十字キーの左側を押すとカーソルが－側に動き、画面が暗く（薄く）なります。
- 色合いは相対値として設定されます。
  例えば、最も赤くしたい場合は、赤を一番右側に設定するだけでなく、緑と青を一番左側に設定することで赤がより強調されます。

3. 調整後、セット／ディスプレイボタンを押すと設定が完了します。

撮影モードの設定

撮影モードに関する各種設定が可能です。

設定内容　◎は初期設定値です。

赤目軽減　フラッシュ撮影したときに目が赤く輝いて写る「赤目現象」を軽減させれます。
- オン　シャッターを切ると、フラッシュが予備発光した後に本発光を行い撮影が終わります。
- ◎オフ　赤目軽減機能は働きません。

※詳細は→P.126　赤目軽減発光

デジタルズーム　光学ズームの最大倍率から更に2倍または3倍に拡大して撮影することができます。
- オン　デジタルズーム撮影が可能になります。
- ◎オフ　デジタルズーム機能は使えません。

※詳細は→P.127　デジタルズーム

ファイルNo.メモリー　ファイル番号の設定方法を変更できます。
- ◎オン　ファイルNo.メモリーが機能し、フォルダが変わってもファイル番号はそのまま続きます。
- オフ　ファイルNo.メモリーは機能せず、フォルダが変わると画像のファイル番号はリセットされて0001になります。

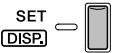
※詳細は→P.128　ファイルとホルダー、　P.130　ファイルNo.メモリー

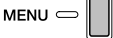
測光（AE）切替　測光（AE）方式を変更できます。
- ◎中央重点　中央重点的平均測光は、画面の中央部に重点を置きながら、画面全体の明るさを測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正（P.76）が必要になります。
- スポット　撮影画面全体の中心部のみを測光して露出を決定します。逆光や被写体と背景とのコントラストの差が大きいなど、撮影画面の一部分のみの明るさに合わせて撮影したい場合に適しています。

カスタム設定　撮影モードをカスタム設定できます。

※詳細は→P.131　カスタム設定

1. P.118の要領で、セットアップメニューの中から「撮影設定」を選択します。

2. 十字キーの上下で、設定するモードを選択します。

セット／ディスプレイボタンで各モードの設定を切り替えます。

●「カスタム設定」の場合は、設定画面が表示されます。

MENU

3. 設定が完了したら、メニューボタンを押します。
- ●設定が完了し、設定前の撮影モード画面に戻ります。再生時にセットアップメニューに入ったときは、メニューボタンを押すと再生画像に戻ります。
- ●シャッターボタンの半押しで、通常の撮影または再生画面に戻ることもできます。

赤目軽減発光

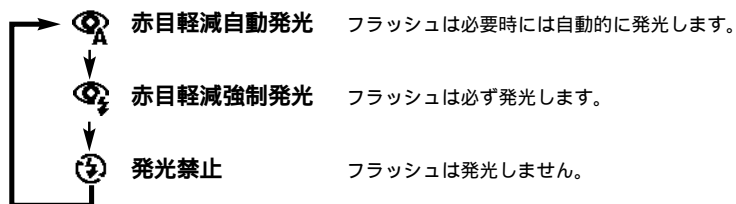
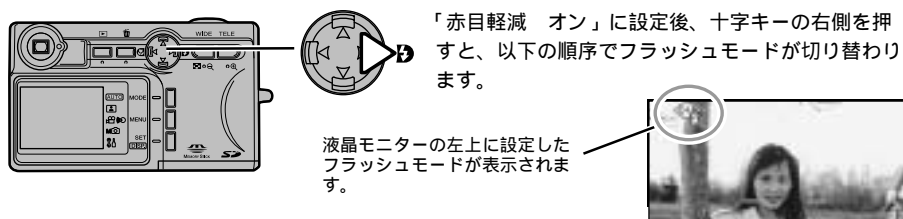
暗いところで人物を撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。このモードでは撮影の直前に小光量のフラッシュが発光し、目が赤く写るのをやわらげることができます。

P.125の要領で、「撮影設定」メニューの中の「赤目軽減」モードを選択し、セット／ディスプレイボタンを押して「赤目軽減　オン」に切り替えます。

操作方法

「赤目軽減　オン」に設定後、十字キーの右側を押すと、以下の順序でフラッシュモードが切り替わります。

液晶モニターの左上に設定したフラッシュモードが表示されます。

- **赤目軽減自動発光**　フラッシュは必要時には自動的に発光します。
- **赤目軽減強制発光**　フラッシュは必ず発光します。
- **発光禁止**　フラッシュは発光しません。

●フラッシュが発光するまでは、カメラを動かしたり撮られる人が動かないようにご注意ください。
●予備発光や本発光を正面から見ていない場合や、被写体までの距離が遠い場合は、赤目軽減の効果が現れにくいことがあります。

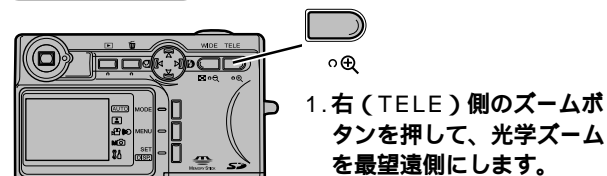
デジタルズーム

通常の光学ズーム（P.33）は3倍までですが、デジタルズームと組み合わせると、さらに2倍または3倍に画像を拡大することができます。

P.125の要領で、「撮影設定」メニューの中の「デジタルズーム」モードを選択し、セット／ディスプレイボタンを押して「デジタルズーム　オン」に切り替えます。

操作方法

TELE

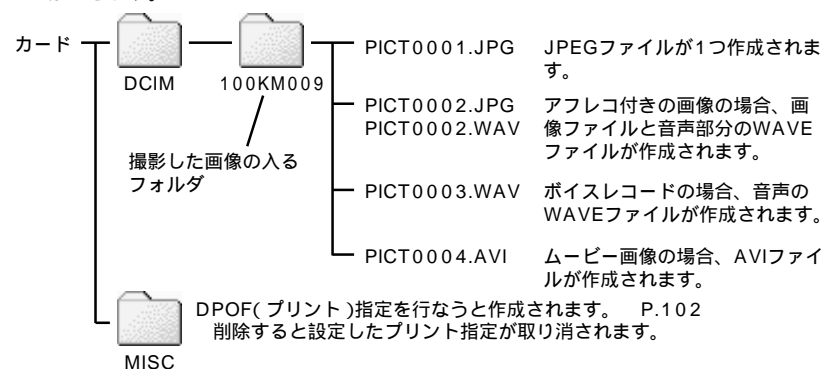
1.右（TELE）側のズームボタンを押して、光学ズームを最望遠側にします。

2.さらに右側のズームボタンを1回押すと2倍に、2回押すと3倍に画像が拡大されます。

●元に戻すには左側（WIDE）のズームボタンを押してください。
●デジタルズーム時には、液晶モニターに倍率（X2、X3）が表示されます。

●デジタルズームは、液晶モニターを見ながら操作してください。液晶モニターが消灯しているとデジタルズームはできません。
●デジタルズーム後に液晶モニターを消灯させると、デジタルズームなしの光学ズームの最望遠位置で撮影されます。
●デジタルズームは、拡大すればするほど画質は劣化します。ただしこのカメラでは画像補間が行われますので、画像サイズは変わりません。
●デジタルズーム時は通常撮影に比べて手ぶれしやすくなります。

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、カード内のフォルダに入れられます。カード内の主なファイルとフォルダの構成は以下の通りです。パソコンに接続すると見ることができます。→P.142

フォルダ名とファイル名

フォルダ名について

例：　100 KM009

フォルダ番号（100～）　識別文字

フォルダ名は、フォルダ番号3桁＋識別文字5文字、から成り立っています。
フォルダ番号（フォルダの通し番号）は100から始まり、フォルダが作成されるたびに1つずつ増えて行きます。
識別文字の "KM" はコニカミノルタを、"009" はこのカメラ（ディマージュ G530）を表します。

● フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか（P.142～）、カメラ側でカードをフォーマットしてください（P.120）。

ファイル名について

例：　PICT 0001 .JPG

ファイル番号（0001～）　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

PICTの後の4桁のファイル番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。カメラの初期設定では、カード内の全画像を消去したり、新しいカードやフォルダに切り替わった後も連番は続きます。SDメモリーカード（またはマルチメディアカード）とメモリースティックを交互に切り替えて撮影していた場合もファイル名は交互に連番で付加されます。また、コピー／移動した画像（P.97）にも新しく連番のファイル番号が付きます。

● カメラ側で消去された画像のファイル番号は欠番となります。
● "PICT9999"まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（前ページの場合だと "101KM009"）ます。
● ファイル番号を0001から開始し直すことができます（→ファイルNo.メモリー、P.130）。
● お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

ファイルNo.メモリー

液晶モニター左上にある4桁のファイル番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。ファイルNo.メモリーでは、ファイル番号を0001からつけ直すことができます。新しいカードに切り替えた時や、カード内の全コマを消去した後に、ファイル番号を0001に戻したい時に便利です。

● カードの中にこのカメラで撮影した画像が入っていると、ファイル番号をリセットできません。

イメージ図(新しいカードに切り替えた場合)

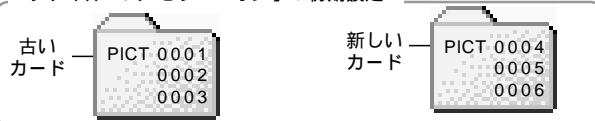
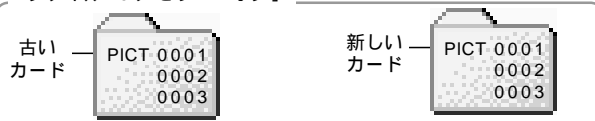
ファイルNo.メモリー「オン」：初期設定

古いカード — PICT 0001 / 0002 / 0003

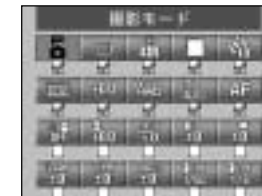
新しいカード — PICT 0004 / 0005 / 0006

ファイルNo.メモリー「オフ」

古いカード — PICT 0001 / 0002 / 0003

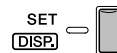
新しいカード — PICT 0001 / 0002 / 0003

カスタム設定

「マニュアル撮影モードメニュー（P.72）」の各モードの設定を個別に無効にさせることができます。また、「画質設定（P.83）」を有効にさせることができます。

1. P.125の要領で、「撮影設定」メニューの中の「カスタム設定」モードを選択し、セット／ディスプレイボタンを押すと、設定画面が表示されます。

「オン」
各モードの機能が有効となり、設定の変更が可能になります。

「オフ」
初期設定モードのみが有効となり、設定した各モードの機能は無効となります。

2. 十字キーの左右でモードを選択し、セット／ディスプレイボタンを押してオン／オフを設定します。

SET
DISP.

画質設定（P.83）の各モードを一括で有効にさせたい場合は、画面内の「カスタム設定」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押してオンを設定します。

● モード毎に設定を無効にさせることもできます。

サウンド設定

操作音や警告音、シャッター音の有り無しを切り替えることができます。

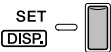
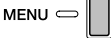
設定内容　◎は初期設定値です。

警告音
セルフタイマーのカウント中に出る音や、警告音の有り無しを選択します。
◎ON・OFF　警告音を鳴らす(ON)または鳴らさない(OFF)に設定します。

効果音
電源を入れた時の音やピントが合った時にお知らせする音など、効果音の有り無しを選択します。
◎ON・OFF　効果音を鳴らす(ON)または鳴らさない(OFF)に設定します。

シャッター音
シャッターを切った時に出る音の有り無しを選択します。
◎ON・OFF　シャッター音を鳴らす(ON)または鳴らさない(OFF)に設定します。

1. P.118の要領で、セットアップメニューの中から「サウンド設定」を選択します。

2. 十字キーの上下で、設定するモードを選択します。

セット／ディスプレイボタンで各モードのオン／オフ設定を切り替えます。

MENU

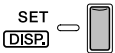
3. 設定が完了したら、メニューボタンを押します。
- 設定が完了し、設定前の撮影モード画面に戻ります。再生時にセットアップメニューに入ったときは、メニューボタンを押すと再生画像に戻ります。
- シャッターボタンの半押しで、通常の撮影または再生画面に戻ることもできます。

カメラの基本設定

日時設定や初期設定などカメラの基本的な設定ができます。

設定内容　◎は初期設定値です。

日時設定		日時の調整ができます。（P.136）
言語設定		言語設定を変更できます。（P.137）
オートパワーオフ設定		オートパワーオフ（P.29）までの時間を変更できます。
	◎3分	3分後にオートパワーオフが働きます。
	10分	10分後にオートパワーオフが働きます。
	オフ	オートパワーオフは働きません。
USB設定		USB接続時のカメラの動作モードを設定できます。（P.138）
初期設定		各種設定を初期状態に戻すことができます。（P.139）

1. P.118の要領で、セットアップメニューの中から「基本設定」を選択します。

2. 十字キーの上下で、設定するモードを選択します。

セット／ディスプレイボタンを押して各モードの設定を切り替えます。

MENU

3. 設定が完了したら、メニューボタンを押します。

- 設定が完了し、設定前の撮影モード画面に戻ります。再生時にセットアップメニューに入ったときは、メニューボタンを押すと再生画像に戻ります。
- シャッターボタンの半押しで、通常の撮影または再生画面に戻ることもできます。

日時設定

日時、年月日の修正が必要な場合は、以下の手順で行ってください。

1.P.135の要領で、「基本設定」メニューの中の「日付設定」モードを選択します。

SET
DISP.

2.セット／ディスプレイボタンを押すと、右の日時設定画面が表示されます。

3.P.31の4〜7の要領で、日時設定を行ってください。

●セットアップメニューによる日時設定では、設定途中にシャッターボタンを半押しすると、日時設定操作をキャンセルできます。

言語設定

液晶モニターに表示される言語を、7カ国語の中から選ぶことができます。

設定内容

日本語／JPN	日本語	ITALIANO	イタリア語
ENGLISH	英語	ESPAÑOL	スペイン語
FRANCAIS	フランス語	中文／CHN	中国語
DEUTSCH	ドイツ語		

1.P.135の要領で、「基本設定」メニューの中の「言語設定」モードを選択します。

SET
DISP.

2.セット／ディスプレイボタンを押すと、右の言語設定画面が表示されます。

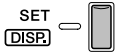
3.P.30の2〜3の要領で、言語設定を行ってください。

USB接続

USB接続時のカメラの動作モードを設定します。

設定内容　◎は初期設定値です。

◎	カードリーダー：	カメラはカードリーダーとして動作します。カメラとパソコンを接続してカード内の画像をパソコンに取り込む場合に使用します。
	PictBridge：	撮影した画像をPictBridge対応のプリンタで印刷する場合に使用します。 ※PictBridge対応のプリンタでの印刷方法について→P.107

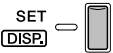
1. P.135の要領で、「基本設定」メニューの中の「USB接続」モードを選択します。

2. セット／ディスプレイボタンを押して希望の設定に切り替えます。

初期設定

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定に戻すことができます。

1. P.135の要領で、「基本設定」メニューの中の「初期設定」モードを選択します。

2. セット／ディスプレイボタンを押すと、右の確認画面が表示されます。

3. 十字キーの左右で「はい」を選択し、セット／ディスプレイボタンを押して初期設定に戻します。

●「いいえ」を選択すると設定を無効にしてセットアップメニュー画面に戻ります。

初期設定に戻るものは以下の通りです。

ボタンで設定するもの

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
フラッシュモード	自動発光	43
マクロモード	AUTO	44
撮影モード	オート撮影	46
液晶モニター表示	情報表示あり	42 89

次ページへ続く

初期設定（続き）

オート撮影モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
カラー	スタンダードカラー	50
連写	1コマ	51
画質モード	5メガ　ノーマル	52
優先メモリー	SDメモリーカード	56
セルフタイマー	OFF	57

シーンセレクターモードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
シーンモード	ポートレート	60
連写	1コマ	51
画質モード	5メガ　ノーマル	52
優先メモリー	SDメモリーカード	56
セルフタイマー	OFF	57

ムービー／音声モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
ムービー／アフレコ／ボイスレコード	ムービー	63
露出補正	±0	76
ホワイトバランス	オート（AWB）	78
優先メモリー	SDメモリーカード	56
セルフタイマー	OFF	57

マニュアル撮影モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
画質設定	OFF	83
撮影モード	プログラム	69
連写＆ブラケット	1コマ	75
画質モード	5メガ　ノーマル	52
優先メモリー	SDメモリーカード	56
セルフタイマー	OFF	57
カラー	スタンダードカラー	50
露出補正	±0	76
ホワイトバランス	オート（AWB）	78
ISO	オート	80
フォーカス	オートフォーカス	82

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
画質設定1・2の値	フラッシュ光量:±0	83
	彩度:±0	83
	コントラスト:±0	83
	シャープネス:±0	83
	色合い（各色）:±0	83
	スローシャッター	83

自動・強制：1/60
発光禁止　：1/8

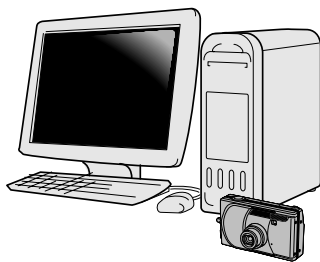
セットアップメニュー

フォーマット

	項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
モニター	アフタービュー	OFF	121
	情報表示	ON	121
	液晶モニター	ON	121
	起動LED	ON	121
	モニター色調整	各色・明るさ±0	121
撮影設定	赤目軽減	OFF	126
	デジタルズーム	OFF	127
	ファイルNo.メモリー	ON	130
	測光方式	中央重点的平均	124
	カスタム設定	マニュアル撮影モードメニュー；ON 画質設定メニュー：OFF	131
サウンド	警告音	ON	132
	効果音	ON	132
	シャッター音	ON	132
基本設定	オートパワーオフ	3分	134
	USB接続	カードリーダー	138

パソコンとの接続

この章では、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続する方法を説明しています。

- カメラとパソコンを接続して画像をパソコンに取り込む場合は、セットアップメニューの「USB接続」の設定を「カードリーダー」にしてください（→P.138）。
- カメラに2種類のメディアが挿入されている場合、オート撮影モードメニューの「優先メモリー」の設定を、取り込みたい画像が記録されている方のメディアにしてください（→P.56）。
- USBケーブル接続中はオートパワーオフ機能は働きません。
- 付属のソフトウェア「DiMAGE Viewer（ディマージュ　ビューアー）」を使われる場合は、別冊のDiMAGE Viewerの使用説明書をご覧ください。

USB接続の動作環境

次のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、カメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です。接続には付属のUSBケーブル USB-810をお使いください（USBマスストレージ対応）。

コンピュータ	IBM PC/AT互換機	Apple Macintoshシリーズ
OS	Windows XP（Home/Professional)、Windows Me、Windows 2000 Professional、Windows 98、98 Second Editionがインストール済み	Mac OS 9.0～9.2.2、Mac OS X v10.1.3～10.1.5、v10.2.1～10.2.8、v10.3～10.3.3がインストール済み
その他	USBポート標準装備	USBポート標準装備

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- 同時に使われるUSB機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- USBポートは内蔵のみをサポートします。ハブ接続した場合は正常に動作しない場合があります。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

最新の動作環境情報（互換性情報）については、弊社ホームページ（以下参照）をご覧いただくか、裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。ホームページの場合は、以下のサイトから互換性情報をご覧ください。

http://ca.konicaminolta.jp/

お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

Windows XP、Me、2000、Macintoshの場合

USBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→P.144～

Windows 98または98SEの場合

付属のディマージュ ビューアー CD-ROMから、USBドライバをパソコンにインストールする必要があります。→P.154～

その後USBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→P.144～

パソコンに接続する（USB接続）

接続の前に、セットアップメニューの「USB接続」の設定を「カードリーダー」にしてください（→P.138）。
2種類のメディアを同時にパソコンに認識させることはできません。カメラに2種類のメディアが挿入されている場合、オート撮影モードメニューの「優先メモリー」の設定が、取り込みたい画像が記録されている方のメディアになっている必要があります（→P.56）。

- 認識させたいメディアの容量がいっぱいの時など、優先メモリーがもう片方のメディアに自動的に切り替わる場合があります。希望のメディアを設定するには、使用しない方のカードを取り外してください。

1.カメラの電源を切り、カードを入れます。
- 優先メモリーが正しく設定されていることを確認してください。

2.パソコンの電源を入れます。

3.USBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。
- 奥まで確実に差し込んでください。
- USBケーブルを取り外す際にはP.150の指示にしたがってください。

4.カメラのUSB端子カバー（P.15）を開けます。

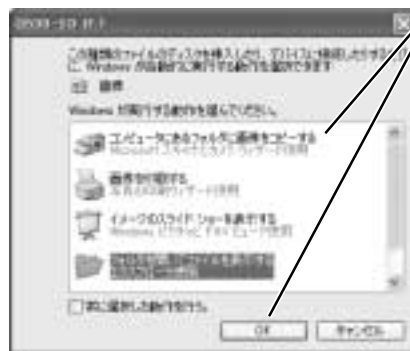
5.付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをカメラのUSB端子に差し込みます。
- 正しくUSB接続されると、緑ランプが点灯し、自動的にカメラの電源が入ります。
- パソコンと接続中に、カメラ側で電源を入れる／切ることはできません。

- Windows 98／98SE使用時に、接続後［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ドライバをインストールしていない場合はP.154へ、すでにしている場合はP.157へ。

パソコンに画像ファイルをコピー・保存する

画像ファイル（動画ファイルや音声ファイルも含む）を、パソコンにコピーして保存します。

- カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプター AC-9の使用をおすすめします。
- カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中は、カメラの電源を切る、カードや電池を取り出す（電池室/カードスロットふたを開ける）といった操作は行なわないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。また、USBケーブルを取り外す時は、正しく接続を解除してから抜いてください（P.150）。
- カードのフォーマットは、カメラ側で行なってください（P.120）。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カメラ側でカードを認識しないことがあります。
- パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。

WindowsXPの場合

1.［フォルダを開いてファイルを表示する］を選び、［OK］をクリックします。
- ［コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする］でも可能です。その場合はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは各パソコンメーカーにお問い合わせください。
- パソコンの設定によっては、この画面が現れないことがあります。その場合は、画面左下の［スタート］→［マイ コンピュータ］→［G530-SD］、または［G530-MS］を開いてください。カードの名前が見つからない場合は、パソコンを再起動してください。

G530-SD＝　SDメモリーカード・マルチメディアカードを使用した場合の名前
G530-MS＝　メモリースティックを使用した場合の名前
※カードの名前は上記以外になることもあります。

※それでもカードが現れない場合は →P.157

次ページへ続く

2.［DCIM］フォルダをダブルクリックして開きます。

● カードのドライブ名（左図の例ではF）は、ご使用のパソコンによって異なります。

● MISCフォルダは削除しないでください。

3.［100KM009］等のフォルダをダブルクリックして開きます。

● フォルダ名の初期設定は［100KM009］です。

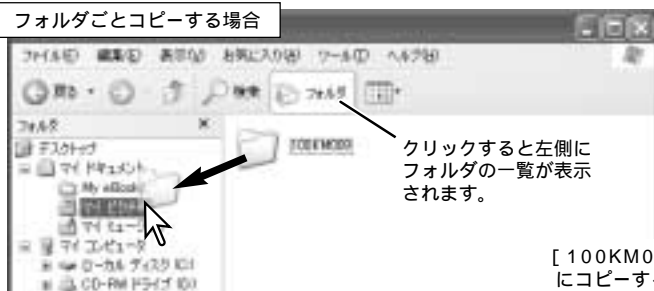
※フォルダの詳細は →P.128

フォルダを開けると、［PICT0001］等の画像ファイルが表示されます。

● お使いのパソコンの設定により、［PICT0001］［PICT0001.JPG］など、拡張子（この場合は".JPG"）が表示される場合とされない場合があります。

4.保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

● フォルダごとコピーする場合は、［100KM009］等のフォルダごと、［マイ ドキュメント］［マイ ピクチャ］等にコピーします。

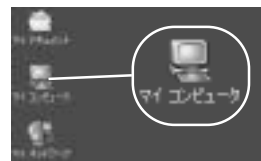
※コピーの方法（ドラッグアンドドロップ）について →P.153

［100KM009］を［マイ ピクチャ］にコピーする例

ファイルごとにコピーする場合

［PICT0001.JPG］を［マイ ピクチャ］にコピーする例

● 画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

● コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

Windows2000, Me, 98, 98SEの場合

1.デスクトップ上の「マイ コンピュータ」をダブルクリックして開きます。

● カメラ内のカードが、「G530-SD」または「G530-MS」などの名前で現れます。（ドライブ名（左下の例ではE）は、ご使用のパソコンによって異なります。）現れない場合は、パソコンを再起動してください。

G530-SD＝ SDメモリーカード・マルチメディアカードを使用した場合の名前

G530-MS＝ メモリースティックを使用した場合の名前

※カードの名前は上記以外になることもあります。

※それでもカードが現れない場合は →P.157

2.現れたカードのアイコンをダブルクリックして開きます。

● 「DCIM」フォルダが現れます。

次ページへ続く

3.［DCIM］フォルダをダブルクリックして開きます。

●MISCフォルダは削除しないでください。

4.［100KM009］等のフォルダをダブルクリックして開きます。

●フォルダ名の初期設定は［100KM009］です。

※フォルダの詳細は →P.128

フォルダを開けると、［PICT0001］等の画像ファイルが表示されます。

●お使いのパソコンの設定により、［PICT0001］［PICT0001.JPG］など、拡張子（この場合は".JPG"）が表示される場合とされない場合があります。

5.保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

［100KM009］
［PICT0001.JPG］を
［マイ ドキュメント］
にコピーする例

●同じ名前のファイルをパソコン上の同じフォルダにコピーすると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめパソコン上のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

●［マイ ドキュメント］以外に保存する場合は、あらかじめ保存先のフォルダを表示させておきます。

Macintoshの場合

カード内のフォルダを直接開ける場合

Macintoshでは、カードがデスクトップ上に、「G530-SD」または「G530-MS」などの名前で現れます。（それ以外の名前になることもあります。）

G530-SD＝　SDメモリーカード・マルチメディアカードを使用した場合の名前

G530-MS＝　メモリースティックを使用した場合の名前

●現れない場合は、パソコンを再起動してください。

1.デスクトップ上のカードアイコンをダブルクリックして開きます。

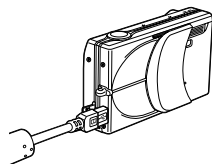
2.P.148の3～5の手順に従って、カード内のフォルダまたはファイルをパソコンにコピーします。

●［マイ ドキュメント］の代わりに、任意の保存先を選んでコピーしてください。

イメージキャプチャを利用する場合（Mac OS Xのみ）

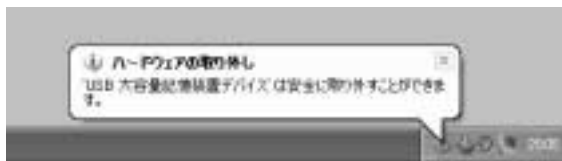
Mac OS Xでは、左図のイメージキャプチャ（Image Capture）が起動することがあります。パソコンに画像を保存する場合は、ダウンロード先を選んで、［一部をダウンロード...］または［すべてをダウンロード］をクリックします。その後はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくはパソコンメーカーにお問い合わせください。

接続を解除する

必要な画像をパソコンにコピーした後は、すみやかに以下の要領でUSB接続を解除されることをおすすめします。カメラ内のカードを交換する場合も、まず以下の操作を行なってください。

Windows XP、Me、2000の場合

お使いのWindows OSによって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの安全な取り外し］または［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］のアイコンを左クリックします。

2. ［USB大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します（または停止します）］または［USBディスクの停止］を左クリックします。

3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、☒または［OK］をクリックします。

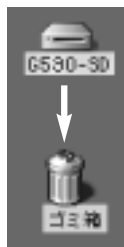
4. USBケーブルを取り外します。
 ● しばらくすると自動的にカメラの電源が切れます。
5. カード交換時は、カメラの電源が切れているのを確認してからカードを交換します。

● 複数のUSB機器を接続している場合は、前ページの2で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックする方法が便利です。以下の手順に沿ってください。
 1. ハードウェアの取り外し画面（右図）が現れたら、USB大容量記憶装置デバイス（DiMAGE G530）を選択して［停止］をクリックする。
 2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
 3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックする。
 4. USBケーブルを取り外す。

Windows 98または98 Second Editionの場合

1. パソコンとカメラ間でファイルが転送されていないことを確認してから、USBケーブルを取り外します。
 ● しばらくすると自動的にカメラの電源が切れます。
2. カード交換時は、カメラの電源が切れているのを確認してからカードを交換します。

Macintoshの場合

Mac OS 9.xの場合

Mac OS Xの場合

1. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。
2. USBケーブルを取り外します。
 ● しばらくすると自動的にカメラの電源が切れます。
3. カード交換時は、カメラの電源が切れているのを確認してからカードを交換します。

パソコンで画像ファイルを開ける

1.画像を保存したフォルダ（マイ ドキュメントなど）をダブルクリックして開けます。

2.見たい画像をダブルクリックします。
- 各ファイルに関連付けされたソフトウェアが自動的に起動します。起動しない場合や意図しないソフトウェアが起動した場合は、先にソフトウェアを起動させ、その後［ファイル］→［開く］を選んでください。

必要なソフトウェア

JPEGファイル

最後に「.JPG」が付きます。一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュ ビューアー CD-ROM内の「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

AVIファイル

動画撮影された画像で、最後に「.AVI」が付きます。再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュ ビューアー CD-ROM内のQuickTimeをインストールしてお使いください。→P.160
- DiMAGE Viewerで動画を見る場合も、先にQuickTimeをインストールしておく必要があります。
- Macintoshの場合通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

WAVEファイル

ボイスレコードやアフレコで録音された音声で、最後に「.WAV」が付きます。OSに付属の音声再生ソフト（Media Player、QuickTime Player等）で再生することができます。画像と同時に再生することはできません。

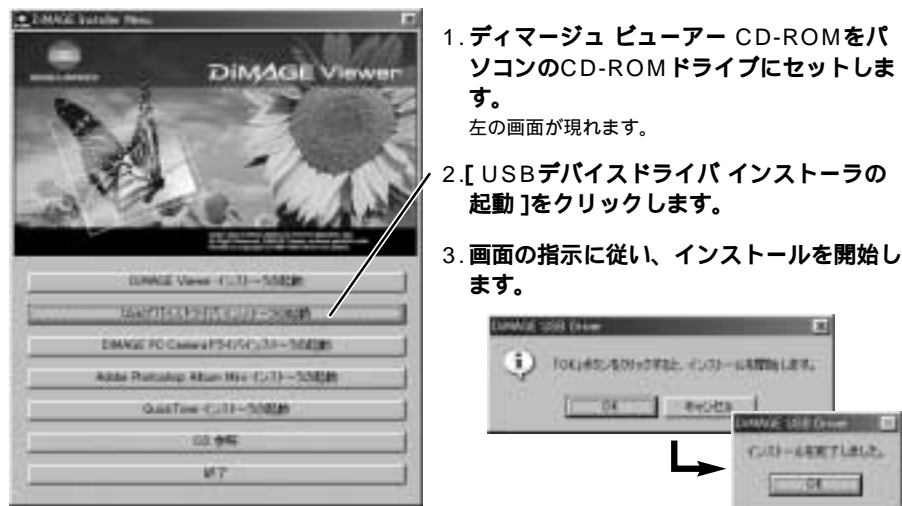
パソコンでのコピー方法（ドラッグアンドドロップ）

パソコンでコピーを行なうには、マウスによるドラッグアンドドロップが便利です。

1. マウスをアイコンに合わせ、左ボタンを押します。
2. 押したままマウスを移動させます（ドラッグ）。
   - 同一のハードディスク上でコピーを行う場合、WindowsではCtrlキーを、MacintoshではOptionキーを押しながらドラッグします。
3. コピー先を反転させ、左ボタンを離します（ドロップ）。

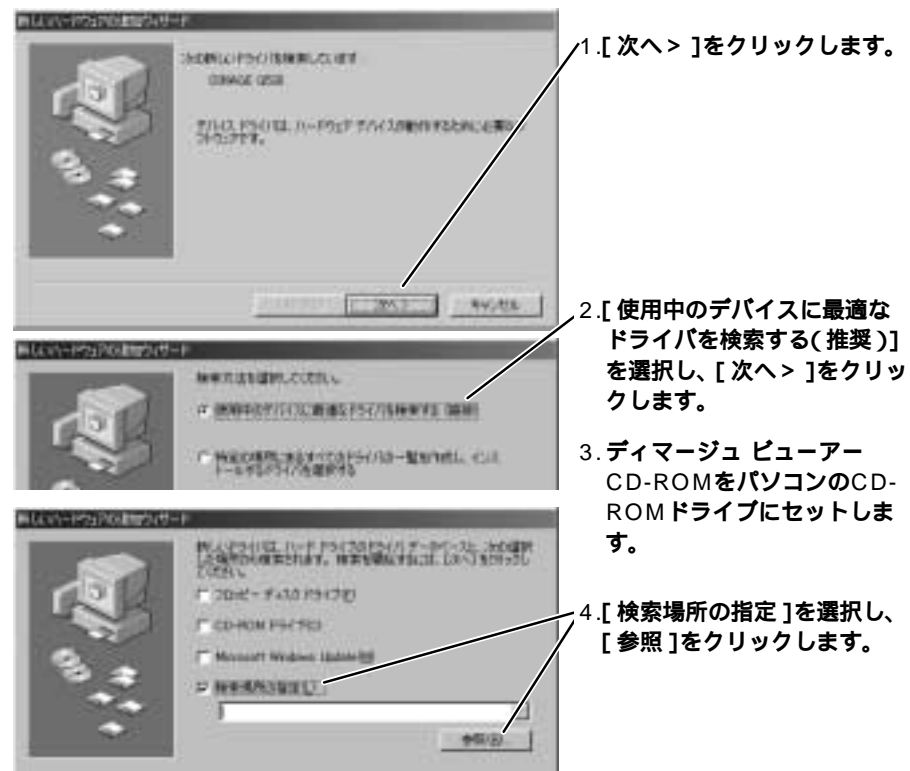
ドライバのインストール（Windows 98/98SEのみ）

Windows 98/98 Second Editionをお使いの場合、付属のディマージュ ビューアー CD-ROMから、パソコンにドライバをインストールする必要があります。

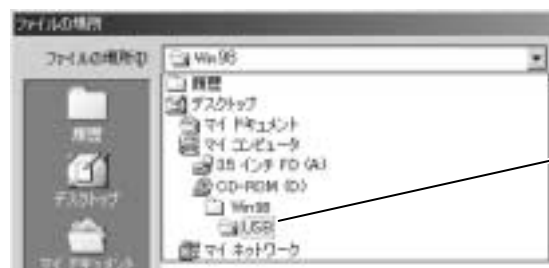
- お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュ ビューアー CD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。
- このカメラ（ディマージュ G530）のWindows 98/98SE用のドライバをインストールした後に、それ以前のディマージュシリーズデジタルカメラ用のWindows 98/98SE用ドライバをインストールすると、ディマージュ G530のUSB接続ができなくなることがあります（逆の順序でインストールすると問題ありません）。

1. ディマージュ ビューアー CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
   - 左の画面が現れます。
2. ［USBデバイスドライバ インストーラの起動］をクリックします。
3. 画面の指示に従い、インストールを開始します。

ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→P.144〜

接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、前ページの要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。下の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。

1. ［次へ>］をクリックします。
2. ［使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）］を選択し、［次へ>］をクリックします。
3. ディマージュ ビューアー CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
4. ［検索場所の指定］を選択し、［参照］をクリックします。

次ページへ続く

ドライバのインストール（Windows 98/98SEのみ）（続き）

5. 検索場所を、［CD-ROM］－［Win98］－［USB］の順に指定します。

6. ［次へ>］をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、［次へ>］をクリックします。

8. インストールが完了すると、［完了］をクリックします。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするようメッセージが表示されることがあります。この場合は、ディマージュ ビューアー CD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

USB接続ができないときは

Windowsをお使いの場合で、カメラをパソコンに接続してもカメラ内のカードが現れなかった場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。

弊社ホームページも合わせてご覧ください。

http://ca.konicaminolta.jp/support/faq/ts/ts001/index.html

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します（P.144）。

● パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。

2. ［マイコンピュータ］を右クリックし、［プロパティ］を選びます。

● Windows XPの場合は、［スタート］から［マイコンピュータ］を選び、右クリックすると［プロパティ］が現れます。

● Windows Me、2000、98、98SEの場合は、デスクトップ上の［マイコンピュータ］を右クリックすると［プロパティ］が現れます。

Windows XP

Windows Me、2000、98、98SE

次ページへ続く

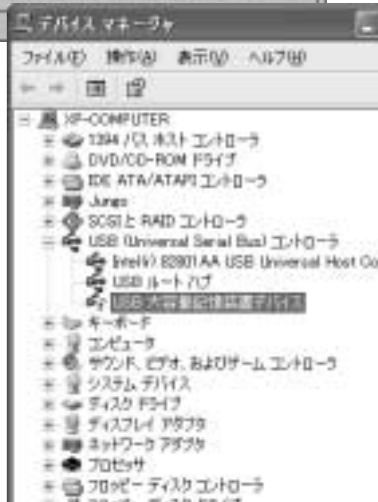
3.「システムのプロパティ」画面から、「デバイスマネージャ」を選びます。

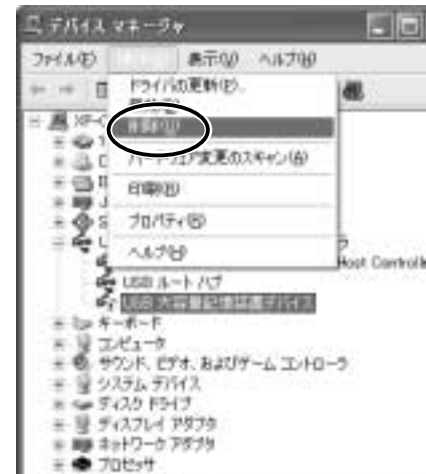
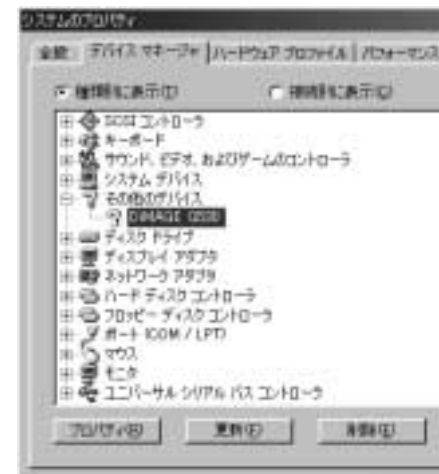
- Windows XP、2000の場合は、「ハードウェア」タブをクリックし、中段の「デバイスマネージャ」をクリックします。
- Windows Me、98、98SEの場合は、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

Windows XP、2000

Windows Me、98、98SE

4.「USBコントローラ」「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」「その他のデバイス」のいずれかにカメラ名称（DiMAGE）を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。

- 項目の左側に「+」が表示されているときは、まず「+」をクリックしてください。
- カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「？」または「！」マークで表示されている項目を選んでください。
- 該当する項目が見つからない場合は、P.144の要領でカメラが正しくパソコンに接続されているかどうかを確認してください。

5.4で選んだ項目を削除します。

- Windows XP、2000の場合は、画面上部の「操作」から「削除」を選びます。
- Windows Me、98、98SEの場合は、「削除」をクリックします。

Windows XP、2000　　Windows Me、98、98SE

6.削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。

7.パソコンを再起動します。

- Windows XP、2000、Meの場合は、この後P.144の要領で、再度USB接続を行ないます。
- Windows 98/98SEの場合は、この後ドライバをインストールし（P.154）、その後再度USB接続を行います（P.144）。

Quick Timeのインストールと使い方

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。Windowsで、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMからインストールしてください。
● Macintoshの場合、通常はQuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

QuickTime 6　動作環境

コンピュータ	IBM PC/AT互換機
CPU	Intel Pentium
OS	Windows 98/Me/2000/XP
必要メモリ	128MB以上の実装メモリ

インストール方法

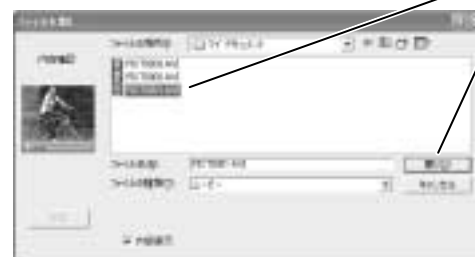
1. ディマージュ ビューアー CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
● 左の画面が現れます。

2. [QuickTime インストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。
● インストールの種類は「基本的なインストール」を選択してください。「最小限のインストール」だと、DiMAGE Viewerでの動画再生・補正時に一部機能が正常に動作しないことがあります。

操作方法

1. QuickTimeを起動させます。
● QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の [スタート] から [プログラム (P)] → [QuickTime] → [QuickTime Player] を選択します。

2. [ファイル (F)] から [新規Playerでムービーを開く...(O)] を選択します。

3. 再生したい動画を選択し、[開く] をクリックします。

4. 動画ファイルを再生します。

操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

Adobe Photoshop Album Mini

付属のディマージュ ビューアー CD-ROMをWindowsパソコンに入れるとAdobe Photoshop Album Miniをインストールすることができます。[Adobe Photoshop Album Mini インストーラの起動]をクリックし、画面指示に従ってインストールしてください。

● このソフトは、Windowsパソコンでのみご利用いただけます。また、Windows98、98SEでは動作しません。

Adobe Photoshop Album Miniは、デジタルカメラで撮影した写真をパソコンに取り込み、手早く整理し、アルバムを作成したり、簡単な補正をしたりすることができます。

また、インターネットに接続することにより、弊社のオンラインラボサービスを利用して、撮影した画像のプリントを注文したり、オンラインアルバムへ画像を保管することができます。

弊社のオンラインラボホームページ （http://onlinelab.jp/）へアクセスすることで上記の他にも様々なサービスが楽しめます。WindowsでもMacintoshでもご利用になれます。

PCカメラドライバ

付属のディマージュ ビューアー CD-ROMをWindowsパソコンに入れると、[DiMAGE PC Camera ドライバインストーラの起動] が現れます（上図参照）が、ディマージュ G530ではこの機能は使用できません。

その他

メッセージ表示一覧

メッセージ	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
カードがありません	カードが入っていない	カードを入れてください。カードが入ってないと、撮影や再生はできません。	24
メモリーがいっぱいです	（撮影時）カード容量がいっぱいである	画質モードの設定を変更する、撮影した画像を消去する、カードを交換する、カードを追加するのいずれかを行なってください。	52 93
	（再生時）画像コピー・移動・リサイズで、カードの残容量以上の画像を一度に指定した	一度に指定する画像数を減らしてください。	97 114
カードが保護されています	SDメモリーカードまたはメモリースティックが書き込み禁止になっている	撮影する場合は、カードのライトプロテクトスイッチを解除してください。	24
読み込めません	カードがフォーマットされていない	カメラでカードをフォーマット（初期化）してください。それでも同じメッセージが出る場合は、カードを交換してください。	120
データがありません	画像が記録されていないカードを入れて再生モードにした	画像が入っているカードを入れるか、先に撮影を行なってください。	—
アフレコできません	すでにアフレコされた画像、プロテクトされた画像、またはボイスレコード、ムービーにアフレコを録音しようとしている	アフレコ画像についた音声の消去をする、またはプロテクト画像にアフレコする場合はプロテクトの解除を行ってください。ボイスレコード、ムービーにはアフレコできません。	65 113

メッセージ	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
プリンタを確認してください	PictBridgeで、用紙切れ等プリンタ側で問題が起こっている	プリンタの問題を解決してください。	110
バッテリーがありません	電池が切れた	電池を充電する、ACアダプタを使う、のいずれかを行なってください。	20
システムエラー	カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、カメラの温度が下がってからこれらの処置を行なってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。		—

あれ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
撮影ができない	電池が消耗している	電池を交換してください。	20
	カメラがパソコンまたはプリンタに接続されている	パソコンやプリンタに接続されている間は、撮影できません。	—
液晶モニターが点灯しない	液晶モニターがOFFになっている	セット／ディスプレイボタンを押してONにしてください。	42 89
	オートパワーオフが作動した	約3分間以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的にカメラの電源が切れます。	29 134
ファインダー横の緑ランプが点滅している	オートフォーカスの苦手な被写体（P.36）を撮ろうとしている	被写体と同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを合わせて、フォーカスロック撮影を行なってください。	37

次ページへ続く

あれ？と思ったときは（続き）

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
ファインダー横の緑ランプが点滅している	被写体に近づき過ぎている	広角側ではカメラより約50cm、望遠側では約80cm以上、マクロ選択時は広角側ではカメラより約5cm、望遠側では約50cm以上離れたものにしかピントが合いません。	36
	レンズが汚れていてピントが合わない	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	－
液晶モニター内の赤ランプが点滅している	フラッシュ発光禁止や夜景ポートレートのため、シャッター速度が遅くなっている	三脚を使って、カメラがぶれないようにして撮影してください。	－
マニュアル露出撮影で露出値が赤く表示される	設定したシャッター速度と絞り値では写真が大幅に露出オーバーまたはアンダーになる	シャッター速度か絞り値を変更してください。	73
再生や設定ができない	カメラがパソコンまたはプリンタに接続されている	パソコンやプリンタに接続されている間は、撮影や再生、カメラの設定はできません。	－
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。	38 81
写真がぶれている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ぶれを起こした	シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用してください。フラッシュを使う方法もあります。	－
光源や光がにじんだり、きれいに再現されない	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	－

別売りアクセサリー

充電器BC-600用 ACコード

充電器BC-600に付属のACコードはAC100V～120V仕様で、日本、アメリカ、カナダ、台湾での使用が可能です。他の国または地域で使われる場合は、その国や地域に応じたACコードを、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にてお求めください。詳しくは弊社のカメラ写真情報サイト（http://ca.konicaminolta.jp/）の「よくあるご質問（FAQ）」でもご覧いただけます。

地域	ACコード
日本、アメリカ、カナダ、台湾向け（100～120V仕様）	ACコードAPC-170（付属品）
ヨーロッパ（イギリスを除く）、韓国、シンガポール向け（220～240V仕様）	ACコードAPC-150（別売り）
イギリス、香港向け（220～240V仕様）	ACコードAPC-160（別売り）
中国向け（220～240V仕様）	ACコードAPC-151（別売り）

- 海外では同一国内でも地域によって「電圧」「プラグ形状」が異なったり、滞在される施設でも異なる場合がありますので、事前にご確認ください。
- 上記ACコードのプラグがコンセントに挿せない場合があります。その場合は、渡航先で変換プラグをご購入いただくようお願いします。

その他

屋内など家庭用電源（AC電源）が使える場合は、ACアダプターを使用すると電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。
その他本革カメラケースCS-DG1200や予備の充電式リチウムイオン電池NP-600などもご用意しています。
この使用説明書裏面に記載のホームページで、詳しい情報についてご覧いただけます。

取り扱い上の注意

電池について

●電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
●いったん容量切れになった電池はかならず交換してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は0～50℃です。
●直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
●カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

SDメモリーカード・メモリースティック等記録メディアについて

●下記の場合、記録されたデータが消去(破壊)されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア(ハードディスク等)にバックアップを取っておくことをおすすめします。
1. お客様または第三者がカードの使い方を誤ったとき
2. カードが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
3. カードへのアクセス中(記録中、フォーマット中など)に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
4. カードの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき

●カードをフォーマット(初期化)すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
●カードには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
●強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください。
●曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
●強い静電気や強い衝撃によってカードが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
●端子部に手や金属で触れないでください。
●熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

液晶モニターについて

●液晶モニターは精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の白や黒、赤などの点が現れることがあります。これは故障や異常ではありませんのでご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。
●液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
●寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
●液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

● カメラに強い衝撃を与えないでください。
● バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
● このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。
海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
● 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置したりしないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
● お客様がデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

● カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
● レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
● シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
● レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

● 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
● 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
● 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
● 保管中も時々カメラを作動させるようにしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

● 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
● 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

●本製品の修理の際には、再生部品を使用したり、再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。また本製品の補修用性能部品は、生産終了後5年間を目安に保有していますが、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
● 本製品の修理に関しては、別紙「アフターサービスのご案内」をご覧ください。

主な性能

有効画素数	約500万画素
撮像素子	1／2.5型総画素約540万画素インターラインCCD、原色フィルター付き
撮像感度	AUTO、ISO 50、100、200、400相当
画面アスペクト比	4:3
レンズ構成	6群7枚
焦点距離	5.6－16.8mm（35mmフィルム換算：34－102mm相当）
開放絞り値	F2.8－F4.9
撮影距離	Wide端:0.5m－∞（レンズ先端から） Tele端:0.8m－∞（レンズ先端から） マクロモード時: Wide端:0.05m－∞ （レンズ先端から） Tele端:0.5m－∞（レンズ先端から） スーパーマクロモード時: 0.2m－0.4m （レンズ先端から） 最大撮影倍率：0.097（ワイド時）35mmフィルム換算で0.57倍相当 最大撮影倍率時の被写体サイズ：44 x 60 mm
ズーム方式	電動ズーム
フォーカス方式	映像AF方式
フォーカスエリア	中央
フォーカス制御	AF（ワンショットAF）
フォーカスロック	可能（シャッターボタン半押しによる） 特定位置（無限、2.5m、1.2m、0.8m）設定可能
ホワイトバランス	AUTO、昼光、白熱灯、蛍光灯、曇天
測光方式	中央重点的平均測光、スポット測光
シャッター	CCD電子シャッターと電子制御メカニカルシャッター併用 シャッター速度：　プログラムAE・絞り優先AE:1秒～1/2000秒 マニュアル露出：15秒～1/1000秒 スローシャッター速度設定可能
AEロック	可能（シャッターボタン半押しでAEロックする）
露出モード	プログラムAE、絞り優先AE、マニュアル露出
シーンセレクター	(任意選択）ポートレート、風景、夜景ポートレート、スナップ、スポーツ、エンジェル
露出補正	±2.0Ev（1/3Evステップ）
フラッシュ制御方式	外部センサーによる発光量制御 フラッシュ同調速度：全速

フラッシュモード	自動発光、赤目軽減自動発光、強制発光、赤目軽減強制発光、発光禁止
ガイドナンバー	6.0（ISO100・m）
フラッシュ連動距離	Wide端：約0.5～3.0m、Tele端：約0.8～1.7m（撮像感度オート時、レンズ先端から）
充電時間	約4秒
調光補正	±1Ev（1/2Evステップ）
ファインダー形式	実像式光学ズームファインダー
ファインダー視野率	約75%
アイポイント	13.5mm（接眼レンズより）12.1mm（接眼枠より）
視度調整	なし
A/D変換bit数	10 bit
記録媒体	SDメモリーカード、マルチメディアカード、メモリースティック、メモリースティックPro
記録画像ファイルフォーマット	JPEG、Motion JPEG（AVI、音声付き） DCF 1.0準拠 DPOF(Ver.1.1)のプリント機能対応 Exif2.2
記録フォルダ形式	標準形式
Exif Print	対応
記録画素数／画質モード	2592x1944 ファイン、2592x1944 ノーマル、2048x1536 ノーマル、1600x1200 ノーマル、640x480 ノーマル
カラーモード	スタンダードカラー、白黒、セピア、W（ウォーム）カラー、C（コールド）カラー
色合い	赤・緑・青　各色5段階調整可能
シャープネス	5段階調整可能
コントラスト	5段階調整可能
彩度	5段階調整可能
ノイズリダクション機能	あり（自動）（マニュアル露出モード時）
Exif Tag情報	撮影年月日時分、露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離、色空間情報 、Exifバージョン、etc.
ファイルコピー機能	あり　SDメモリーカードとメモリースティック間のコピー可能（選択コマ／全コマ）
ファイル移動機能	あり　SDメモリーカードとメモリースティック間の移動可能（選択コマ／全コマ）
画像リサイズ機能	あり　640×480、320×240へリサイズ可能
消去機能	あり（1コマ／指定コマ／全コマ） 誤消去防止機能：あり（1コマ／指定コマ／全コマ）
フォーマット機能	あり

次ページへ続く

主な性能（続き）

液晶モニター	1.5型（3.8cm）低温ポリシリコンTFTカラー　モニター画素数：約7.7万画素 視野率：約100%
表示内容	撮影時：ライブビュー（30フレーム／秒）、各種状態表示、アフタービュー 再生時：再生画像（1コマ、インデックス9コマ、拡大表示；スクロール可能、スライドショー、動画、音声表示）、各種状態表示
連続撮影	約0.7コマ／秒（連写モードON、2592x1944 ノーマル時）撮影条件による
連続ブラケット	露出ブラケット　露出ずらし量：±0.5Ev　枚数：3枚
セルフタイマー	約3秒、約10秒
動画	ファイル形式：Motion JPEG（AVI）　記録画素数：320×240 フレームレート：15フレーム／秒 録画時間：記録媒体の容量、電池寿命を限度に録画可能 音声あり（モノラル）
音声	ボイスレコード、アフレコ　　モノラル　ファイル形式：WAVE形式
デジタルズーム	2倍、3倍（2ステップ）
操作音	警告音、効果音、シャッター音のあり/なし設定可能
使用電池	本体：充電式リチウムイオン充電池　1本
外部電源	DC 4.2V（ACアダプター使用時：ACアダプター INPUT 100～240V）
連続動作時間	連続再生：約200分　当社試験条件（電池は付属品を使用）
撮影可能コマ数	約185コマ　CIPA*準拠。（電池、メモリーカードは付属品を使用）
PC用インターフェース	USB USB2.0対応機器に接続した場合、Full speed(12Mbps)の転送速度となる。
PictBridge	対応
大きさ	93.5（幅）× 55.5（高さ）× 26.0（最薄部 23.0）（奥行き）mm
質量（重さ）	約145g（電池、記録メディア別）

*CIPA:　カメラ映像機器工業会

充電式リチウムイオン電池 NP-600

電圧	3.7V
容量	860mAh
大きさ	31.8 × 49.8 × 9mm
質量（重さ）	約25g

充電器 BC-600

入力電圧	AC100～240V*
入力周波数	50／60Hz
入力容量	0.1A（100V）～0.06A（240V）
充電出力	4.2V DC　0.8A
充電時間	約120分
大きさ	71 × 57.5 × 25.8mm
質量（重さ）	約57g（電池別）

*充電器に付属のACコードはAC100～120V仕様です。※海外で使用する場合は →P167

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

数字・アルファベット

＜らくらくリペアサービスのご案内＞

弊社では新しい修理受付サービス「らくらくリペアサービス」をスタートいたしました。お客様自らご送付の手続きに出向かれることなく、「(梱包後）お引き取り」→「修理」→「お届け」をワンパックにし、お客様のご自宅と弊社修理センターを直結。
面倒な手続きを弊社お任せでご利用いただける「らくらくリペアサービス」を是非ご利用ください。

サービス利用料金

全国一律900 円でご利用いただけます。（税込）
- 保証適用外の場合は別途修理料金と代引き手数料がかかります。
- サービス利用料金はお申し込みの際に今一度お確かめください。

ご利用方法

1. インターネット・電話のいずれかの方法で、下記「らくらくリペアサービス係」へ申し込みください。
2. お申し込み後1日～2日後に弊社指定の宅配業者がお伺いいたします。その際、梱包材料を持参いたしますので、その場で修理依頼品を梱包の上、宅配業者にお渡し頂くか、もしくはお引き取り日を宅配業者にご指定ください。
   - 修理依頼品梱包時にもアフターサービスのご案内の「らくらくリペアサービス修理依頼書」に必要事項をご記入の上、同梱願います。
   - 保証期間内の場合は、必ず保証書を同梱してください。
3. デジタルカメラの修理品はお預かり後、5日程度でお届けいたします。
   - お届けの際に、代金を宅配業者にお支払いください。各種クレジットカードのお取り扱いはできません。

【らくらくリペアサービス係】
ナビダイヤル 0570-001112　ナビダイヤルは市内通話でご利用頂けます。
受け付け時間：9:00 ～17:00 （土・日・祝日は除く）
ホームページ→http://ca.konicaminolta.jp
- ナビダイヤルは、携帯電話・自動車電話・PHS ・列車公衆電話・船舶電話等からはご利用できません。
- お客様の電話機のACR 機能設定等時に、ナビダイヤルをご利用になれない場合があります。